

じへいしょう こ はったつ うなが きょういく じゅつ せま
自閉症スペクトラムの子ども達の発達を促す教育術に迫る

かぞく しえんしゃ
家族と支援者のためのガイドブック



Um mergulho na arte de educar para o desenvolvimento dos indivíduos no espectro do autismo.

Una introducción en el arte de educar para el desarrollo de las personas con espectro autista.

A guide to assist families in the education and development of individuals with an Autism Spectrum Disorder



日本語
フリガナ付き

英語
English

スペイン語
Español

ポルトガル語
Português

FREE

DOWNLOAD



もくじ

PART 1	子どもたちのインクルージョン—自閉症スペクトラムを持つ子どもの教育・発達に関する、家族のためのガイド（日本語） -----	2
	Integrando crianças — Um guia para auxiliar as famílias na educação e no desenvolvimento dos indivíduos no espectro do autismo. (ポルトガル語) ----	16
PART 2	団体概要 -----	30
PART 3	電話・オンラインによる心理・健康個別相談 -----	34
PART 4	孤立しがちな中高生の居場所運営「つみれ自習室」 -----	42
	外国につながる中学生のための自習室「スペース Amigo」 ---	44
PART 5	教育相談 -----	46

PART 1

子どもたちのインクルージョン

自閉症スペクトラムを持つ子どもの教育・

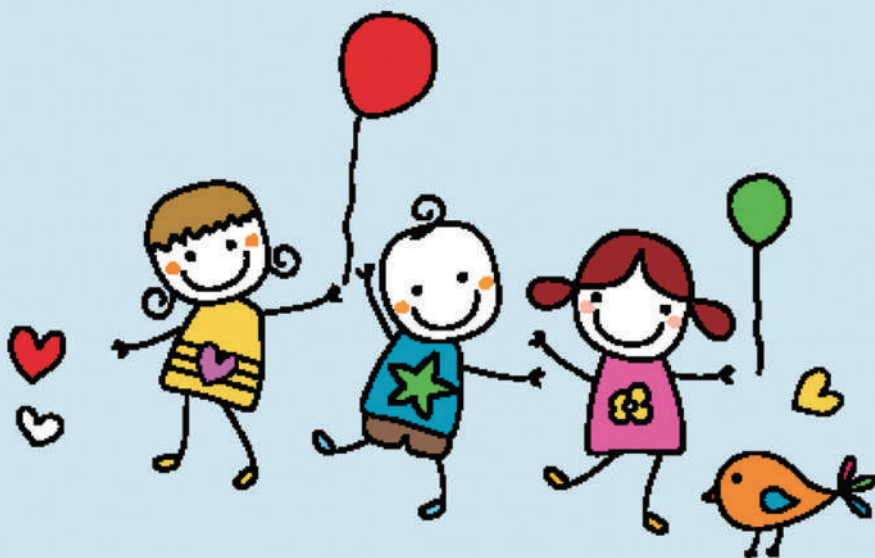
発達に関する、家族のためのガイド

親や介護者という仕事は、終わりのない困難に満ちています。もちろん、子どもには取扱説明書があるわけではありません。それに、彼らが自分自身や他人、自分の価値観を理解し受け入れ、適応力のある機能的な社会人となるよう育て教育する知識が、私たちには欠けていることが多いのです。

自閉症スペクトラムのある子どもの場合、人生のある時点で非常に特殊なニーズを持つため、課題はさらに大きなものになります。さらに、コミュニケーションや社会的相互作用における困難、興味や自律性の制限は、家族全体の生活の質に大きく影響します。

この冊子では、自閉症スペクトラム (ASD) の本質をよりよく理解するための情報やヒント、そしてスペクトラムの子どもや若者と日々関わる際に役立つ、実用的な資料を紹介しています。

クラデ・マイラ

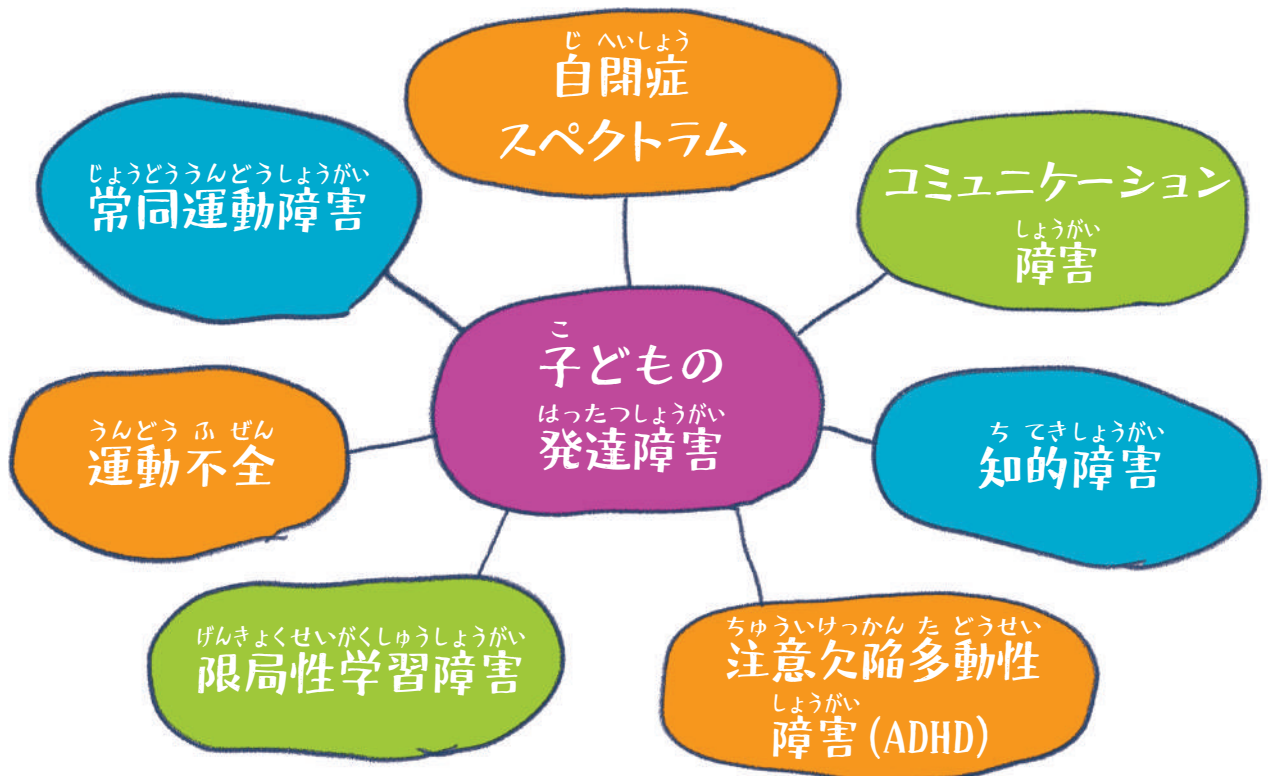


しんけいはったつしょうがい 神経発達障害



とりわけ生物学的・遺伝的な、複数の要素の乱れを含む、妊娠中の神経系の調和を欠いた発達による障害で、発達の初期段階、通常は3歳までに現れます。注意、知覚、運動能力、感情、認知、コミュニケーションなどの神経心理学的機能に、障害をもたらす可能性があります。

しょうがい れい 障害の例は？



自閉スペクトラム症 (ASD) とは？

出生時または幼児期から存在する神経発達障害ですが、3歳になるまでに、
発覚しなかったり完全に発現しない場合があります。

ASD は、3つの基本的な特徴を備えた様々な神経発達障害を包含しており、
同時に発症することも、単独で発症することもあります。

例を挙げると：

- 表現性コミュニケーションの欠乏 - 言語および／または非言語の障害、
発話の欠如または遅延、反響言語、感情共有の難しさ。
- 他者との交流や絆の形成が困難なため、友人関係を築いたり維持したり
することが難しい。

ジェスチャーや話し方を真似る能力が低下しているため、観察や繰り返し
による学習が困難。

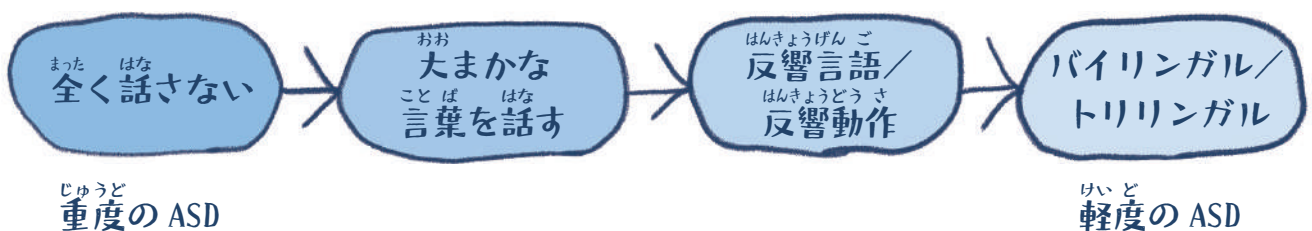
社会的交互関係の欠如（命令、呼びかけ、遊びなどに反応しない）。

- 挙動、興味、活動の限定的かつ反復的なパターン。



なぜスペクトラムなのか？

症状やその現れ方は様々で、軽度から重度の障害まであります。しかし、
コミュニケーションや社会的関係の形成が困難であることは共通しています。





とくちょう かんかく かびん ASDの特徴：感覚過敏



のう こうどう とうせい かんきょう なか けいしき いみ あた しげき しより
脳は、行動を統制し、環境の中で形式に意味を与え、刺激を処理し、フィルターにかかけます。しかし、ASDではこれらの機能が変調をきたし、感覚刺激に対する反応性が高くなったり低くなったりすることがあります。これにより、すべてまたは一部の感覚において、異なる知覚や感覚をもたらす可能性が
せい
あります。例えば：

- **聴覚** - ある音に対する不快感または不耐性。

- **嗅覚** - 匂いが不快感や渴望感を引き起こすことがある。

- **味覚** - 口で物を調査する、偏食がある、味や食感が渴望感や嫌悪感を引き起こすことがある。

- **触覚** - 触られたり抱きしめられたりすることを嫌悪する、衣類やラベルを極端に嫌う、痛み
に弱い、暑さや寒さに鈍感である、ざらざらした表面に惹かれる。

- **視覚** - 明るい場所での物体の知覚の歪み、回転物への凝視、非常に頻繁な細部への集中。

- また ASD を持つ人は、バランスを取ったり爪先歩きすることが困難であるなど、他の特徴を示すこともあります。



きょうみ せいげん ていけいてき こうどう 興味の制限と定型的な行動



これらの要素は、ASD 患者の発達に大きな影響を与えます。なぜなら、子どもの認知構築の自然な促進剤となる、特定の文脈での様々な状況を経験する機会を、制限してしまうからです。修正が困難なため、日常の様々な状況への適応に必要な、柔軟性の妨げになります。そして、危機状態の引き金となることが非常に多いです。これら反復行動や制限には、いくつかの側面があります。

➡ 胴や手を振る、飛び跳ねる、喉を鳴らす、舌打ちするなど、実用的な機能を伴わない反復運動をする。

➡ 物体、方向、回転を使った特殊な動き。

➡ 確立された習慣や儀式を変えることに抵抗があり、常に同じことを同じ方法で行おうとする。

➡ 限定的または変則的な興味。

➡ 特定のキャラクター、映画、アニメなど、特定の題材やテーマへの執着。

子どもはこのような固定観念や制限を取り入れることで、**平静**を保っています。家族や学校は、この平静を乱す代わりに、特定のパターンを「修正」するような変更を加えることを恐れるかもしれません。習慣の途絶を避けようとする子どもの暴発につながりかねないためです。しかし、このような自閉的制限症状を放置しておく、子どものグローバルな発達の变化や進行を妨げながら、悪循環が生まれてしまいます。



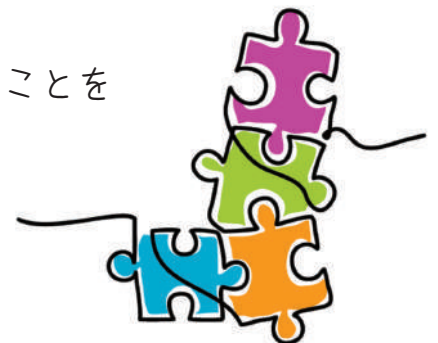


ひと ASDの人をケアする上で重要な点

- 診断は3歳まで行えませんが、**早ければ早いほど**、改善の可能性が高まります。
- 正式な診断の前に治療を開始できる可能性があるため、親は自閉症の初期症状に注意する必要があります。
- 研究では、刺激に反応しやすい4歳までが、治療の可能な時期であると示唆されています。

ASDの最初の兆候とは？

- 目と目の交流。このやりとりは早くから始まり、自閉症児は母親の目ではなく、周囲のものに視線を合わせた、**とらえどころのない表情**をしている。
 - 赤ちゃん特有の**小さな声のやりとり**「ママ言葉」や、赤ちゃんが意味のない最初の音節を話し始める段階「ラレーション」に、周囲が気づかない。
 - 奇妙で異常な凝視をしている。
 - 音に反応しない、親が呼んでも反応しない。
 - 他人の視点に全く興味がない。
 - 親しい人の膝の上で抱っこされることを期待しない。
 - 2歳になるまで声を出したり話したりしない。
- これらの兆候は、子どもが世界と交流していないことを示しており、神経発達障害の疑いがあります。



に じ せい じ へい しょう 二次性自閉症

しんけいはったつしょうがい かんけい いか よういん ひ お
神経発達障害とは関係ないものですが、以下の要因で引き起こされることがあります。

- 子どもの深刻な社会的孤立と、その引き金となる要因。例えば：いじめ、家庭内暴力、身体的・言語的虐待など。
- タブレット、携帯電話、ビデオゲーム、テレビなどの電子メディアへの長時間に渡る接触。

に じ せい じ へい しょう ばあい ちりょう ふくざつ おお ばあい
二次性自閉症の場合、治療はそれほど複雑ではありません。多くの場合、子どもを孤立させない、あるいは電子メディアに接触させないようにするだけで、症状が改善されます。

じゅうよう じ こう 重要事項！

- 保護者の方は、良い専門家を探すだけでなく、治療に参加するなど、積極的な姿勢でお子さんをケアすることが大切です。
- ASDには、子どもたち一人ひとりに特有のバリエーションがあるため、自分の子どもの特徴に気づいておいてください。何かおかしいと感じ、疑問に思ったら、できるだけ早く専門家の助けを求めてください。



ひと たす ASDの人たちを助けるには コミュニケーションと社会的相互作用

おや どうちよう けいぞくてき かんしん しゅうちゅう そくしん こ こうりゅう もと
親は、同調と継続的な関心の集中により促進される子どもとの交流を求
めることが、不可欠です。例えば：

- アイコンタクトを促すような姿勢をとる。
- アイコンタクトを促し、求めながら、可能な限り子どもと向き合う。
- 発声を伴うゲーム、童謡、明確な韻を踏んだ歌などを通し、子どもとの簡単なやりとりを形成する。

どうちよう ぜんてい ほか と ため
同調を前提とした、他のやり取りも試してみてください。

たと
例えば：

- ジェスチャーを真似る。
- 歌に合わせて、手や足で床を叩く。
- 常に童謡を活用する。
- ボールを投げ渡したり、物を交換したり、「今度は私、今度はあなた…」といった、模倣を伴う遊びをする。
- オノマトペ（擬音語・擬態語）を使った発声遊びは、コミュニケーションへの開放性を高め、子どもの音のレパートリーを増やします。

そうぞうせい はっき こ つづ こうあん
創造性を発揮し、子どもが続けたくなるようなゲームを考案しましょう。

かぞく がっこう ゆうじん ひろ もほう たの きょうゆう しゃかいてきじょうちよてき そう
家族、学校、友人にも広げられる、模倣、楽しさの共有、社会的情緒的な相
互関係を促進しましょう。



ていけいてき こうどう せいげん きょうみ 定型的な行動と制限された興味

おや にちじょうせいかつ なか かど く かえ ちょうこう ちゅうい しゅうかん けっしょうか
親は、日常生活の中で「過度の繰り返し」の兆候に注意し、習慣を結晶化
させないようにする必要があります。

- 子どもに負担をかけないように、非常にゆっくりと、少しずつ、絶え間
ない多様性と変化を求める：物事の軌跡、製品のブランディングとラベ
リング、グラス、皿、衣類、おもちゃ。
- キャラクターのジェスチャーやセリフを予測することができる、繰り返
し見る絵や映画への固執。多くの場合、非文脈的、または反響言語的。

かのう かいにゆう 可能な介入：

- 大人が子どもの世界に入り込み、その言葉の意味を理解しようとする。
例えば、「ピーター、あなたは～を覚えてるよね？」と言い、そのセリ
フがどのアニメから来たものなのか、子どもに思い出させる。
 - 子どもの疎外感を解消し、その場にいる大人、さらには他の子ども、きよ
うだい、友だちとの接触を促すような言葉を、常に探す。
 - 映画、テレビ、タブレット、電子ゲームなど、意識を狭く集中させ、世
間からの疎外感を助長し、不安を増大させる可能性のあるもの全てへの
接触を、できるだけ減らす。
- こうえん 公園でのおもちゃ遊び、トランポリン、滑り台、ブランコなどを使った遊
び、プール、湖や川でのゲーム、水遊び全般など、他の幅広い運動遊びへ
と子どもを移行させることが不可欠です。
- 環境を変え、週末や休暇を利用して旅行に行くなど、繰り返しの習慣を
崩すようなことをしましょう。



こじんてき しゃかいてき じりつせい 個人的・社会的自律性

えいせい いふく しょくじ こじんてき しゃかいてき じりつせい じりつせい そくめん
衛生、衣服、食事、個人的・社会的自律性など、自律性のさまざまな側面
しげき さぎょう だんかい じよじよ しょうかい こ いっしょ なに
を刺激するそれぞれの作業の段階を徐々に紹介しながら、子どもと一緒に何
ていあん
かをする提案。

- 大人は、今ここで起きていることの中に子どもを位置づけること。
- 行為の機能性を見極める — 常に「何のために？」と問うこと。
- 行動を突然遮らないこと。
- これから起こることを常に口頭で知らせる。
- 必要に応じてジェスチャー、文字でのヒント、画像などを使う。
- 活動を複数の小活動に分け、その順序に注意を払う。
- 親や介護者は、子どもが集中力を失ったら、必要に応じて段階的に軌道修正するよう努める。
- 常に子どもの発達レベルを考慮する。
- 子どもが何かを学んだと気づいたら、その機会を利用し、要する時間を考慮しながら、自分自身でやるよう促す。必要であれば、各ステップごとに写真やイラストを使用する。

せんたくし じりつせい たか かのう かぎ こ えら
選択肢も自律性を高めるものです。可能な限り、子どもに選ばせてくださ
いるい てん せんたくし
い。たとえば、衣類1点の選択肢は2つか3つまでにしてください。これは
じりつせい きた しゅだん
自律性を鍛えるとともに、コミュニケーションの手段でもあるのです。



ちゅうい はら 注意を払うべきこと

子どもが小さいほど、そして／または、制御不能な行動が認められるほど、状況に留まる能力は低くなります。そこで、

- 短い活動を選択する。
- 活動の終わりには必ず合図をする。

これらの側面は**規律的**なものであり、組織内で子どもたちが自らを位置づけ、より柔軟に環境に適應するために役立つものです。

子どもと遊び、さらに遊び、そしてふれあう

親は、子どもが話し始めることを期待して、質問をしたり、言った表現を繰り返させたりすることにこだわります。しかし子どもは、言葉を発する前に、機能的な発話の前の段階である、**コミュニケーションとふれあい**の重要性を発見する必要があります。

初期段階 - 模倣と関心の共有の発達、遊び、ファンタジー…

この段階では、子どもたちが困難に立ち向かうことができるように、愛情と励ましに満ちた雰囲気の中で、コミュニケーションをサポートすることが基本となります。それが彼らが世界を発見し、経験や知識の集まりを構築するのを手助けしながら、日常生活の最も多様な場面を通しての成長を促します。例えば、遊んだり、歌ったり、三輪車の漕ぎ方を発見するのを手伝うなどです。



困難な局面におけるいくつかのヒント

自閉症の人は、邪魔が入ったり、習慣が変わったり、刺激が強すぎる環境に置かれたりすると、やる気をなくしてしまうことがあります。これらは、悪化したあるいは制御困難な反応を誘発しうる状況の、一例です。

このような状況がある程度頻繁に起こるようであれば、子どもがイライラしたり、感情をコントロールできない兆候を示したときのための、行動計画を立てることが重要です。



ひとつのコツは、子どもが自分自身で落ち着けるようなキットを作ることです。感覚を刺激し、感情の過剰な負荷を和らげる素材を使い、箱や、部屋のコーナーさえ作ることができます。子どもの年齢に合わせてアイテムを選ぶとよいでしょう。

たとえば、枕、ぬいぐるみ、抱きしめることのできる柔らかいもの、シャボン玉セット、粘土、ギュッと握れる弾力あるおもちゃ、キラキラ光る瓶など目に楽しいもの、ランプ類、ローションやディフューザーなど嗅覚を刺激するもの（この場合、どの香りが好きかを子どもに確認しておくことが大切です）などが考えられます。



ベッドシートでできたものであっても、小屋やテントのような、小さくて居心地のよい場所で休むのが好きな子もいます。また、広い場所が好きな子もいます。このように、それぞれの子どもの特徴を知っておくことはとても大切なことなのです。



ノイズキャンセリングヘッドフォン、^{みみ あ}耳当て、そして^{おんがく}音楽も、^{かれ}彼らを^お落ち着かせるのに役立ちます。^{やく だ}マッサージ、リラクゼーション、^{こきゅうほう}呼吸法、あるいは^{くうき ふく}空気で膨らませた^{しろ}お城の^{と は}トランポリンでの^{ねんちよう こ}飛び跳ね、年長の子もならサンドバッグを叩くこと、「^{うご}シリー・ジョン」の動き、^{ふうせん}風船を使った^{つか}テニスゲームなどの^{みじか うんどう}短い運動も、役立ちます。

^{みず}水にはとても心^{こころ}を^お落ち着かせる^{ようそ}要素があります。^{およ}泳いだり、^{ゆ ぶね}湯船で遊んだり、^{びん みず}瓶に水を入れたり空けたりすることは、とても^{たす}助けになります。また、^{き き ひん}危機に瀕したときには、^{つめ みず}冷たい水で^{かお}顔を洗ったり、^{かくごおり}角氷を手に取って^{て と}手や首に^{て くび}こすりつけたりすると、^{たか}こうしたときに^{しんぱくすう}高まる心拍数を^{おさ}抑えることができます。



それぞれの^こ子どもの^{りかいど}理解度に^あ合った^みアクティビティを見つけることがとても^{たいせつ}大切です。^{かつどう}活動の仕方は常に^{しかた}子どもに^{つね}任せつつ、^{まか}参加し、^{さんか}交流^{こうりゆう}しましょう。

^こ子どもが^お落ち着いた^きことに^き気づいたら、^{じょうちよじょうたい}よりバランスのとれた情緒状態を^{かくほ}確保するため、^{たの}楽しい^{かつどう}活動を紹介し、^{しょうかい}交流^{こうりゆう}を図りましょう。



さいご 最後のメッセージ

診断結果にとらわれすぎず、子どもたちに目を向けてください。子どもの好きなもの、特徴、特異性に気づき、今この瞬間、関係、交流、愛情に意識を向けるようにしましょう。例えば、子どもが靴箱で遊び始めたときなど、子どもが何かに興味を持ったことに気づいたら、その機会を利用して一緒に遊び、子どもの世界に入ってみてください。この体験が、楽しくて温かいふれあいにつながるでしょう。子どもは複雑なおもちゃよりも、自分で作ったり発見したりしたシンプルなおもちゃのほうが、ずっと好きなことがあるのです。

こううん いの
幸運を祈っています！

さんこうしりょう 参考資料

- Krishnamurti, J. (1953). A educação e o significado da vida (11 ed.). Pensamento-Cultrix Ltda.
- Mazetto, C. (2020, março, 28). 5 dicas para famílias de crianças com autismo nesta quarentena. Medium. <https://medium.com/@camillamazetto/5-dicas-para-fam%C3%ADlias-de-crian%C3%A7as-com-autismo-nesta-quarentena-e5ae736b30eb>
- Mazetto, C. T. M. (2010). Reflexões acerca das construções cognitivas no autismo: contribuições piagetianas para uma leitura da terapia de troca e desenvolvimento (TED). Dissertação de Mestrado, Instituto de Psicologia, Universidade de São Paulo, São Paulo. doi:10.11606/D.47.2010.tde-20102010-160016. Recuperado em 2023-01-25, de www.teses.usp.br
- Nassif, M. C. Org (2017). Inovações em psicologia clínica: O Programa Abrangente Neurodesenvolvimental: PAN. São Paulo: Editora Atheneu.
- Nassif, M. C. (2015, maio, 05) Saúde em dia, Autismo, vídeo, disponível em <https://youtu.be/mx7k84yW5Cs>.
- Nassif, M. C. (2014, novembro, 26). Neurodesenvolvimento e Prevenção, vídeo, disponível em <https://youtu.be/j7F-nRZcywg>.
- Rosa, M. E. R. C. ., & Cavalcanti, A. S. R. de R. M.. (2022). The visual perception of people with Autism Spectrum Disorder and its implications: an approach from Gestalt. Research, Society and Development, 11⁽¹¹⁾, e56111133416. <https://doi.org/10.33448/rsd-v11i11.33416>

Integrando crianças

Um guia para auxiliar as famílias na educação e no desenvolvimento dos indivíduos no espectro do autismo.

Ser pai, mãe ou cuidador não é tarefa fácil, as crianças não vêm com manual de instruções e nem somos preparados para recebê-los e educá-los de forma a torná-los seres humanos integrados, sábios e com a capacidade de percepção de si mesmo, dos outros e de seus próprios valores.

No caso dos indivíduos que estão no espectro do autismo, os desafios são ainda maiores, pois eles têm necessidades peculiares em alguns momentos da vida. Além disso, as dificuldades de comunicação, interação social, autonomia e restrição de interesses podem impactar na qualidade de vida de toda a família.

Desta forma, nesta cartilha, você encontrará conteúdos e dicas que vão colaborar para ampliar a sua compreensão sobre a natureza dos transtornos do espectro do autismo (TEA) e também recursos práticos que poderão auxiliá-lo nos cuidados diários com crianças e adolescentes neste espectro.

Um grande abraço

Mayra Kurade



Transtornos do Desenvolvimento Infantil ou do Neurodesenvolvimento



São transtornos que aparecem precocemente, no período inicial do desenvolvimento, normalmente **até os 3 anos de idade**. Esses transtornos ocorrem devido a um desenvolvimento desarmônico do sistema nervoso na fase de gestação em decorrência da atuação de vários fatores, tais como biológicos, genéticos, entre outros, causando um funcionamento diferenciado das funções neuropsicológicas tais como atenção, percepção, motricidade, emoção, cognição, comunicação.

Quais são esses transtornos?



O que é o Transtorno do Espectro do Autismo

É um transtorno do desenvolvimento neurológico que deve estar presente desde o nascimento ou começo da infância, podendo não ser detectado ou manifestado totalmente antes dos 3 anos.

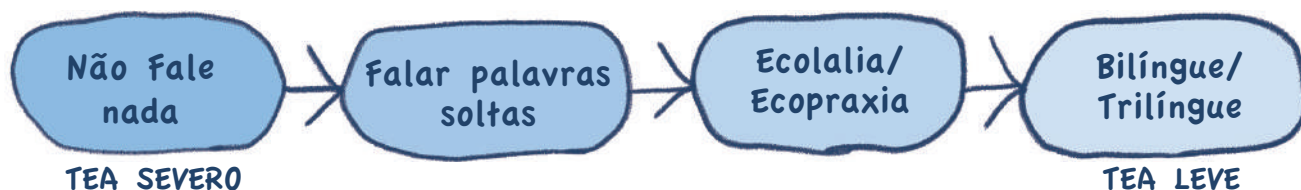
O TEA engloba diferentes quadros marcados por perturbações do desenvolvimento neurológico com **três** características fundamentais, podendo manifestar-se em conjunto ou isoladamente. São elas:

- **Déficit expressivo na comunicação, comprometimento** no domínio da linguagem verbal e/ou não verbal, ausência ou atrasos da fala, ecolalia, dificuldade em compartilhar emoções.
- **Dificuldade na interação e no contato com o outro**, podendo ficar difícil desenvolver e manter amizades, capacidade de imitação reduzida, o que dificulta o aprendizado por observação e repetição. Falta de reciprocidade social (não responder a comandos, chamados ou brincadeiras).
- **Padrões restritos e repetitivos** de comportamento, interesses e atividades.



Porque Espectro?

Envolve vários sintomas e apresentações muito **diferentes** umas das outras, variando de comprometimento leves a graves. Mas todos estão relacionados com dificuldades de **comunicação** e **relacionamento social**.



Características do TEA: Hipersensibilidade sensorial

O cérebro organiza ações, dá sentido às coisas, processa e filtra estímulos, mas no TEA essas funções podem estar alteradas gerando alta ou baixa reatividade a estímulos sensoriais. O que pode gerar percepções e sensações diferentes em todos/ou alguns órgãos do sentido, como:

- **Audição** : Incômodos ou intolerância a alguns sons;
- **Olfato** : Cheiros podem causar desgostos, ânsia;
- **Paladar**: Podem explorar objetos com a boca, ter seletividade alimentar, gostos e/ou texturas podem causar ânsia ou rejeição;
- **Tato** : Aversão ao toque, abraço, desconforto extremo com roupas, etiquetas, alta tolerância à dor, falta de sensibilidade ao calor e frio, atração por superfícies ásperas;
- **Visão**: percepção distorcida de objetos com luzes brilhantes, olhar fixo para coisas que giram, muito frequentemente focalizam-se em pequenos detalhes;
- Podem ainda apresentar outros comportamentos como dificuldade para equilibrar-se e andar nas pontas dos pés.



Restrição de interesses e comportamento estereotipado



Representam grande impacto para o desenvolvimento do indivíduo com TEA, porque limitam as oportunidades de experimentar diferentes situações que o contexto oferece, que são estimuladores naturais para a construção da cognição da criança. Por serem difíceis de mudar, impedem a necessária flexibilidade para adaptar-se às diferentes situações do dia a dia, sendo, muito frequente, disparadores das crises. Essas repetições e restrições apresentam diferentes aspectos:

- ⇒ Englobam movimentos repetitivos sem função, tais como balançar o tronco ou as mãos, dar pulos, emitir sons guturais, estalidos;
- ⇒ Movimentos particulares com objetos, alinhamentos, rotações;
- ⇒ Resistência a mudanças em rotinas ou rituais estabelecidos, buscam sempre fazer a mesma coisa, do mesmo jeito;
- ⇒ Restrição de interesses, ou interesses atípicos;
- ⇒ Adesividade a certos assuntos ou temas, por exemplo, se apegam a um personagem específico, a um filme, desenho.

À medida que a criança se ocupa com as estereotípias e restrições ela se mantém calma, isso leva a família e a escola a ter medo de mudar, fixando certos padrões a fim de impedir as crises, que surgem quando alguém tenta interferir nessas rotinas. Mas a perpetuação dos sintomas restritivos autísticos gera um ciclo vicioso, que não favorece a mudança, impedindo a evolução do desenvolvimento global da criança.





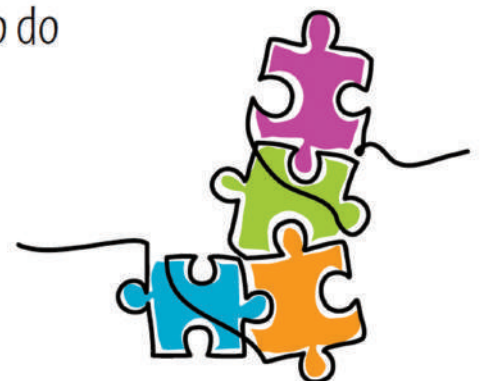
Aspectos importantes no cuidado com indivíduos com TEA

- O diagnóstico é possível de ser feito somente após a criança ter completado três 3 anos, porém, quanto **mais precoce** for a avaliação, maiores são as possibilidades de melhora do quadro.
- Os pais devem ficar atentos aos sinais precoces do autismo, pois a criança pode iniciar tratamento antes mesmo de ser diagnosticada.
- Pesquisas indicam que, até os 4 anos, tem-se uma grande oportunidade de tratamento, pois, nessa idade, a criança responde melhor aos estímulos.

Quais são os sinais precoces do TEA?

- A criança tem um **olhar fugidio**, não fixa no olho da mãe e sim nos objetos;
- Não se percebe nos bebês as **pequenas trocas vocais**, o "mamanhês", e nem a lalação, fase que o bebê começa a falar as primeiras sílabas sem sentido;
- A criança tem olhares estranhos, incomuns;
- A criança não reage a sons ou quando é chamada;
- Não tem interesse pelo olhar do outro;
- Não antecipa o abraço para ir para o colo de outra pessoa conhecida;
- Até os dois anos a criança não vocaliza e não fala.

Esses sinais demonstram que a criança não está estabelecendo uma troca com o mundo e pode apresentar algum transtorno do neurodesenvolvimento.



Autismo secundário

É aquele que não tem nenhuma relação com o neurodesenvolvimento da criança, mas pode surgir devido aos seguintes fatores:

Grande isolamento social da criança e seus fatores desencadeantes, tais como: bullying, violência doméstica, maus-tratos;

Longa exposição a meios eletrônicos tais como tablets, celulares, vídeo games, televisão.

Neste caso, o tratamento é menos complexo. Há casos em que o simples fato de tirar a criança do isolamento ou da exposição a meios eletrônicos é suficiente para a melhora do quadro.

IMPORTANTE!

- Os pais devem ser protagonistas no cuidado de seus filhos, não só buscar bons profissionais, mas também se envolver no tratamento.

- Conhecer e se atentar às características de seus filhos é essencial, pois o TEA tem variações que são peculiares a cada criança. Se algo está estranho e você está em dúvida, procure orientação de um profissional o mais breve possível.



Como ajudar os indivíduos com TEA?

Comunicação e interação social

É fundamental que os pais busquem trocas que sejam favorecidas pela sincronia da atenção entre ele e o filho, tais como:

- Adotar posturas corporais que favoreçam o contato visual;
- Sempre que possível ficar frente a frente para a criança, facilitando e buscando o olhar;
- Estabelecer trocas simples com a criança através de brincadeiras acompanhadas de vocalizações, parlendas e canções com rimas bem marcadas.



Ex: Brincadeira do serra, serra, serrador, serra o papo do vovô.

Tentar outras trocas que busquem **sincronização**, tais como:

- Imitação de gestos;
- Bater palmas ou pés no chão acompanhando-se uma canção;
- Use e abuse das cantigas infantis;
- Brincadeiras que envolvam imitação, troca de bolas, troca de objetos, "agora eu... agora você...";
- Jogos vocais e onomatopéias também favorecem abertura à comunicação e ao desenvolvimento do repertório sonoro.



Seja criativo e invente brincadeiras que levem a criança ao desejo de continuar, fazendo-a despertar para a **imitação, prazer compartilhado e reciprocidade sócio emocional**, expandindo também para a família, escola e amiguinhos.



Comportamentos estereotipados e restrição de interesses

Os pais devem estar alertas a qualquer sinal de "repetitividade excessiva" no dia a dia, buscando a não cristalização das rotinas.

Buscar a diversidade continuamente, mudando, pouco a pouco a fim de não sobrecarregar a criança, fatores como: trajetos, marcas e rótulos de produtos, copos, pratos, roupas, brinquedos.

Fixação em desenhos ou filmes, aqueles que são vistos repetidas vezes, favorecem que a criança antecipe gestos ou falas dos personagens, muitas vezes tornam-se descontextualizadas ou ecológicas.

Intervenções possíveis:

O adulto pode entrar no mundo da criança e tentar buscar sentido para essa fala. Ex: Pedro, você está se lembrando de... e estimular a criança a lembrar de que desenho é essa fala.

Criança: Mário, Mário, eu sou o Mário. Mãe: E eu sou o Luigi, hahaha, em tom de brincadeira.

Busque sempre falas que quebrem o alienamento da criança e favoreçam o contato com o adulto ali presente, ou mesmo com outra criança, irmãos ou amiguinhos.

Diminuir o máximo possível a exposição da criança a filmes, **televisão, tablets e jogos eletrônicos**, pois todos capturam o foco atencional de modo muito restrito, favorecendo a alienação do mundo e aumentando a ansiedade.

É fundamental mobilizar a criança para outros tipos de brincadeiras que envolvam jogos motores amplos, como brinquedos de parques, escorregadores, balanços, jogos em piscinas, rios, água em geral.

Busque mudanças de ambiente, aproveite o fim de semana ou as férias para viajar ou fazer coisas diferentes, isso favorece o desligamento das rotinas repetitivas.



Autonomia pessoal e social

Propostas que envolvem realizar algo junto com a criança, introduzindo pouco a pouco as fases de cada tarefa, para a estimulação dos diferentes aspectos de autonomia, tais como higiene, vestuário, alimentação, autonomia pessoal e social.

- O adulto deve situar a criança no que está acontecendo no aqui e agora.
- Buscar a funcionalidade das ações - para quê?
- Não interromper as ações abruptamente.
- Sempre anunciar verbalmente o que vai ocorrer.
- A depender da necessidade, fazer pistas gestuais, ou escritas, figuras.
- Dividir a atividade em sub-ações e atentar-se a sequência delas.
- Os pais e cuidadores devem tentar situar novamente a criança em caso de perda de foco, quantas vezes forem necessárias, etapa por etapa.
- Sempre levar em consideração o nível de desenvolvimento da criança.
- Se percebeu que a criança aprendeu, aproveite para estimulá-la a fazer sozinha, respeitando o tempo necessário para que ela conclua. Se precisar, lance mão de figuras e ilustrações para cada etapa.

As escolhas também ajudam na autonomia, portanto, na medida do possível, deixe a criança escolher. Peças de roupas, por exemplo, dê no máximo duas ou três opções, pois, além de exercitar a autonomia, é um caminho para a comunicação.



ATENTE-SE PARA...

Quanto menor a criança e/ou a presença de comportamentos desregulados, mais breve será a capacidade de manter-se em uma situação. Então:

- Escolha atividades breves;
- Sempre sinalize a finalização das atividades.

Esses aspectos são **regulatórios** e as ajudam na organização, a situarem-se e adaptarem-se de modo mais flexível ao meio ambiente.

Brincadeiras, use, use e abuse

Os pais insistem em fazer perguntas ou pedir que a criança repita alguma expressão dita por eles na intenção de que a criança comece a falar.

Porém, antes da fala, a criança precisa descobrir a importância da **comunicação e da troca**, estágios que precedem a fala funcional.


Estágio primário - O desenvolvimento da **imitação e da atenção** compartilhada, do **brincar**, fantasiar...

Desta forma, é fundamental ajudar as crianças a se comunicarem em um clima afetivo e encorajador no enfrentamento das dificuldades, bem como estimular o crescimento de seus filhos pelas mais diversas situações do cotidiano, ajudando-os a descobrir o mundo e construir suas experiências e diferentes saberes: brincando, cantando, jogando, ajudando-os a descobrir como se pedalar um triciclo.



Algumas dicas

para os momentos difíceis:

Indivíduos com autismo podem se desorganizar quando são interrompidos ou quando mudam de rotina, ou estão em ambientes com excesso de estímulos. Essas são algumas das situações que podem desencadear reações exacerbadas ou difíceis de controlar. 

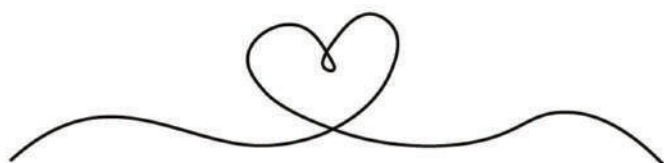
Se você nota uma certa frequência, nesses momentos, é importante criar um plano de ação para ser colocado em prática sempre que a criança apresentar sinais de irritabilidade ou descontrole emocional.

Uma dica é criar um kit que permita a criança acalmar-se de modo independente. Você pode criar uma caixa, ou até mesmo criar um espaço com materiais que estimule os sentidos e alivie a sobrecarga emocional. Os elementos devem ser selecionados de acordo com a idade da criança.

Algumas dicas seriam almofadas, animais de pelúcia, objetos macios que ela possa abraçar, kit de bolinhas de sabão, massinha, objetos que sejam prazerosos de se olhar como jarras de glitter, alguns tipos de luminárias, artigos que estimulam o olfato, tais como loções e difusores (nesse caso, é importante checar com a criança quais as fragrâncias que ela gosta).



Algumas crianças gostam de **espaços pequenos e aconchegantes** para se acalmarem tais como cabaninhas ou tendas, mesmo que feitas com lençóis. Outras já preferem correr em espaços amplos. Por isso é tão importante conhecer as características de cada criança.



Fones de ouvido, abafadores de ruído e músicas também podem ajudar a acalmar. Assim como massagens, relaxamentos e respirações, ou exercício físico por um pequeno período, como pular em um pula pula, bater em um saco de box para as crianças maiores ou em um "João bobo", ou até mesmo um jogo de tênis com balões.

A água é um elemento muito calmante, nadar, brincar no ofurô, encher e esvaziar potes de água podem ser de grande ajuda. E, para os momentos de crise, lavar o rosto com água fria ou pegar em um cubo de gelo, esfregando-o nas mãos e na nuca pode ajudar a diminuir a frequência cardíaca que aumenta nesses momentos.



É muito importante buscar atividades que se adequem ao nível de compreensão de cada criança. Participe e interaja junto com ela, dando sempre o comando de como funciona a atividade.

Ao perceber que a criança se acalmou, apresente uma atividade prazerosa e interaja com ela, garantindo assim que ela conseguiu chegar a um estado emocional de maior equilíbrio.



Mensagem final

Não se prenda ao diagnóstico e sim à criança, procure notar o que ela gosta, as suas características e peculiaridades e foque no momento presente, na relação, na interação, no afeto. Se perceber que alguma coisa chamou atenção desta criança, por exemplo, ele começa a brincar com uma caixa de sapato, aproveite para brincar junto, entre no mundo da criança e essa experiência pode resultar em uma divertida e acolhedora interação. Às vezes, as crianças gostam muito mais de brinquedos simples, confeccionados ou descobertos por elas, do que aqueles mais complexos.

Boa sorte!

Referências

- Krishnamurti, J. (1953). A educação e o significado da vida (11 ed.). Pensamento-Cultrix Ltda.
- Mazetto, C. (2020, março, 28). 5 dicas para famílias de crianças com autismo nesta quarentena. Medium. <https://medium.com/@camillamazetto/5-dicas-para-fam%C3%ADlias-de-crian%C3%A7as-com-autismo-nesta-quarentena-e5ae736b30eb>
- Mazetto, C. T. M. (2010). Reflexões acerca das construções cognitivas no autismo: contribuições piagetianas para uma leitura da terapia de troca e desenvolvimento (TED). Dissertação de Mestrado, Instituto de Psicologia, Universidade de São Paulo, São Paulo. doi:10.11606/D.47.2010.tde-20102010-160016. Recuperado em 2023-01-25, de www.teses.usp.br
- Nassif, M. C. Org (2017). Inovações em psicologia clínica: O Programa Abrangente Neurodesenvolvimental: PAN. São Paulo: Editora Atheneu.
- Nassif, M. C. (2015, maio, 05)Saúde em dia, Autismo, vídeo, disponível em <https://youtu.be/mx7k84yW5Cs>.
- Nassif, M. C. (2014, novembro,26). Neurodesenvolvimento e Prevenção, vídeo, disponível em <https://youtu.be/j7F-nRZcywg>.
- Rosa, M. E. R. C. ., & Cavalcanti , A. S. R. de R. M. . (2022). The visual perception of people with Autism Spectrum Disorder and its implications: an approach from Gestalt. Research, Society and Development, 11(11), e56111133416. <https://doi.org/10.33448/rsd-v11i11.33416>



PART2 団体概要

ABC ジャパンは、横浜市鶴見区在住の日系ブラジル人が中心となり、2000年に発足した団体です(2006年にNPO法人化)。

日本人も外国人も同じ町に暮らすもの同士として支え合う様々な事業を行っています。特に外国人市民が「今、困っていることをなくす」「将来、困らないように」そして「共に楽しむ」ために続けている多彩な活動は、支援ではなく、お互いが住み心地のいい町・社会を作っていくための手段であると考えています。

日本人も外国人も日系人も、大人も子どもも、共に解決していく仲間として日々目の前の課題に取り組み続けています。

名 称	NPO 法人 ABC ジャパン
設 立	2000年(2006年にNPO法人格取得)
住 所	神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央4-7-15 ラカンパーナキソヤ3F

■ 活動内容 ■

子どもの教育保障	フリースクール、中学・高校生対象放課後自習室、小学校内放課後学習支援教室、教育フェア(高校・大学進学&キャリアガイダンス)、小学校～大学・キャリアの各種多言語版ガイドブック等
大人の自立支援	大人の日本語教室、第2種電気工事士試験対策講座、電気工事士のための日本語教室、年金等システム紹介ビデオ等
コミュニティづくり	大学・高校・中学校での多文化教育出張授業、研修・講演会、外国人の体験ワークショップ、地域イベントへブース出展、ポルトガル語・中国語教室等
こころのサポート	大人と青少年のための心理カウンセリング、電話・オンラインによる心理・健康個別相談、心理領域セミナー等
次世代へバトンタッチ	外国につながる先輩・後輩交流会、キャリア教育、ルーツを持つ国の言葉や文化を学ぶ教室等
+ α	自然災害被災地支援、コロナ禍における食料支援、ブラジルにおけるキャリアアップ支援事業、日系社会研修員受入事業等

■ 主な連携先 ■

ブラジル大使館、ブラジル総領事館、神奈川県教育委員会、横浜市、鶴見区、独立行政法人国際協力機構(JICA)、海外日系人協会、NPO法人サードプレイス、NPO法人鶴見保育の会・ひだまり保育園、社会福祉法人青丘社、横浜子ども支援協議会、関東学院大学、フェリス女学院大学等

■ ABC ジャパンのあゆみ ■

2000年	団体設立
2006年	NPO 法人 ABC ジャパンとして法人化
2009年	在日ブラジル人全国ネットワーク発足、事務局となる 文化庁「『生活者としての外国人』のための日本語教育事業」として、大人の日本語教室開始／文部科学省「定住外国人の子どもの就学支援事業」として、フリースクール、小学校内放課後学習支援教室「つるみ〜によ」開始
2010年	「外国につながる子どもと保護者のための大学進学ガイダンス」開催
2011年	東日本大震災 被災地支援実施 「外国につながる子どもと保護者のための高校進学ガイダンス」開催
2012年	「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」として、「外国につながる子ども・家族を地域で支える教育ネットワーク構築事業」を実施
2013年	外国につながる子どもを対象とした「アミーゴ JUKU」開講 大人のための「ポルトガル語教室」開始 多言語版『ようこそ 鶴見区の小学校へ・中学校へ』制作・発行
2014年	かながわボランティア活動推進基金 21「ボランティア活動補助金事業」として「外国につながる子ども・若者の教育機会の保障のためのプロジェクト」開始
2015年	「第2種電気工事士試験対策講座」開講 日伯外交関係樹立 120 周年記念事業「ブラジル WEEK」を企画・運営
2016年	「外国人の気持ちになってみる？」ワークショップを制作・実施
2017年	2校目の小学校内放課後学習支援教室「いりふねつるみ〜によ」開始 かながわボランティア活動推進基金 21 として神奈川県教委との協働事業「外国につながる子ども・若者と家族の包括的支援事業」開始 多言語版『大学進学ガイドブック』制作・発行
2018年	多言語版『高校進学ガイドブック』、『Denko da ABC』制作・発行
2019年	日本語教材『まいにちのほんご』制作・発行 多言語版『ようこそ かながわの小学校へ・中学校へ』制作・発行
2020年	事務所&教室の移転／多言語版『将来の仕事 MAP』制作・発行 「外国ルーツ青少年未来創造事業」として「移民2世・3世のキャリア形成に向けた青少年未来創造事業」開始／コロナ緊急支援フードパントリー事業実施 ルーツの言葉と文化を学ぶ教室・心理カウンセリング事業開始
2021年	ブラジル政府主催「継承ポルトガル語オリンピック大会」参加及び事務局 継承ポルトガル語教材、『外国につながる若者の日本語作文』制作・発行 JICA「日系社会研修員受入事業」開始
2022年	JICA「草の根技術協力事業」開始 「教育フェア（高校・大学進学&キャリアガイダンス）」開催 継承ポルトガル語教材、『就職ワークブック』制作・発行

■ 受賞歴 ■

2018年	理事長 安富祖がブラジル政府よりリオ・ブランコ国家勲章受賞
2019年	理事長 安富祖が日本政府より外務大臣表彰受賞

■ 活動の様子 ■

▼子どもの教育保障

来日したばかりの子どもや日本生まれ日本育ちの子ども、それぞれに必要な学習の機会や居場所、進学・キャリア形成の情報、そして様々な経験や楽しみを子どもたちに提供しています。



▼コミュニティづくり

私たちが考えるコミュニティは、外国人コミュニティのことではありません。国籍関係なく、いろんな人がいるコミュニティとして捉えています。



▼大人の自立支援

「すぐに役に立つ」を大切に日本で安定して生活するための学習の場やスキルアップのための機会づくりをしています。コロナ禍を経てオンライン化が進み、参加者は全国に広がりました。



▼こころのサポート

移住による喪失感や言葉や文化の壁等による悩みが積み重なると心の健康に大きく影響します。専門家による多言語での心理カウンセリングやオンライン心理領域セミナーを実施しています。



▼+α

国内に住む外国人のための長年の支援活動で培ったノウハウやネットワークを活かし、ブラジルに住む日系人のための支援としてキャリアアップ支援や日系社会研修員受入事業を行っています。



PART3

『電話・オンラインによる心理・健康個別相談』

本事業の目的は家族や子育て等の悩みや困難を抱えていて、近くに相談する場所がなく、孤立しがちな外国人市民に対し、専門家が電話を通して相談に応じ、心理療法を用いながら、現状認識の変化及び、医療機関への架け橋を築くことです。また、昨年度に続き、今年度も医療情報相談を実施しました。コロナ渦で、昨年度余儀なく対面相談を主にオンラインに変更したところ、今年度は横浜市内のみならず、全国を対象地域として実施できました。

〈実施方法〉

公認心理師1名、ブラジル国臨床心理士1名、ブラジル国医師1名が相談にあたりました。

一日時一

医療情報相談固定相談：水曜日 17時から19時まで

心理相談固定相談：月曜日 19時から21時まで／木曜日 20時から22時まで

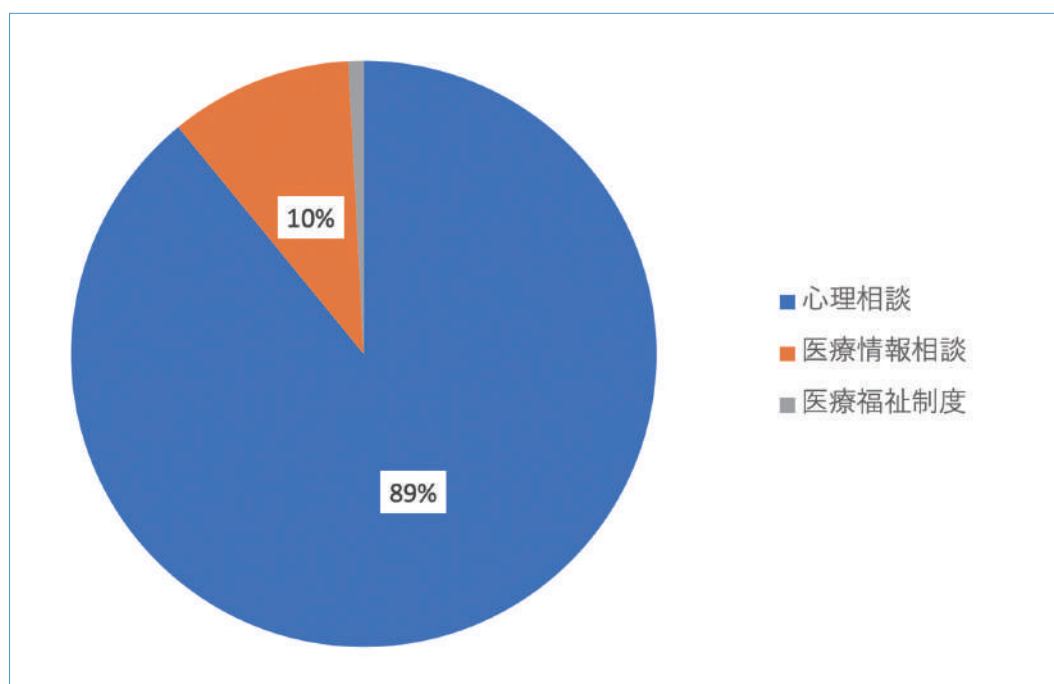
特別心理相談当直：2023年2月～3月12回 各回2時間から4時間

予約心理相談：平均週に16時間

〈相談内容〉

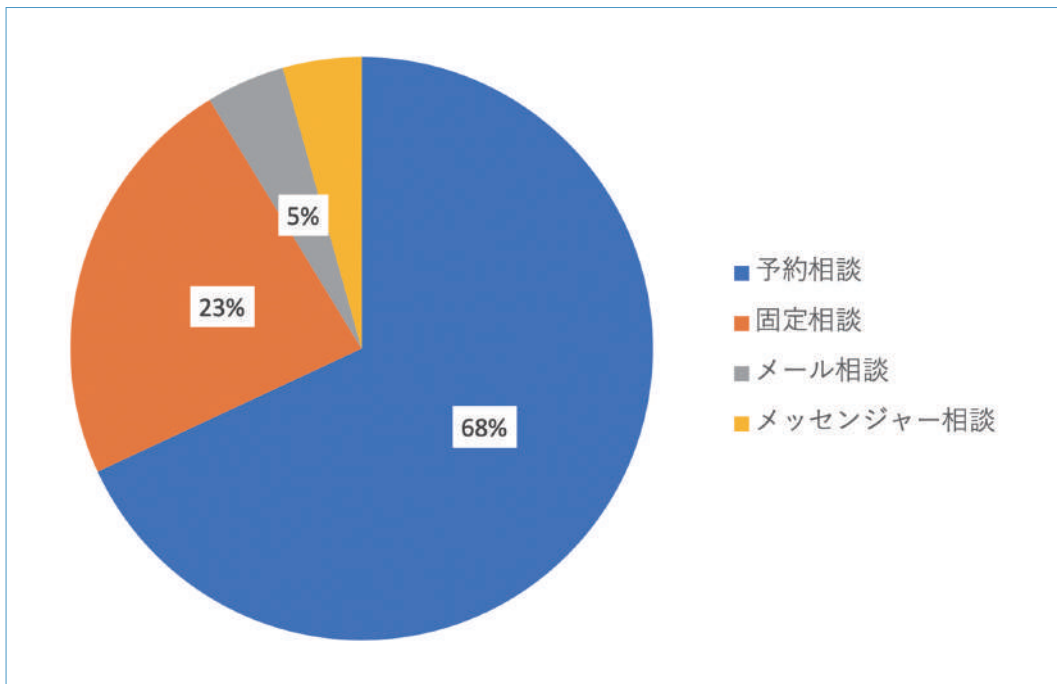
2022年4月1日から2023年3月31日までの総相談件数は595件でした。内、「心理相談」が約89%、「医療情報関連相談」が約11%を占めました。

相談種類別



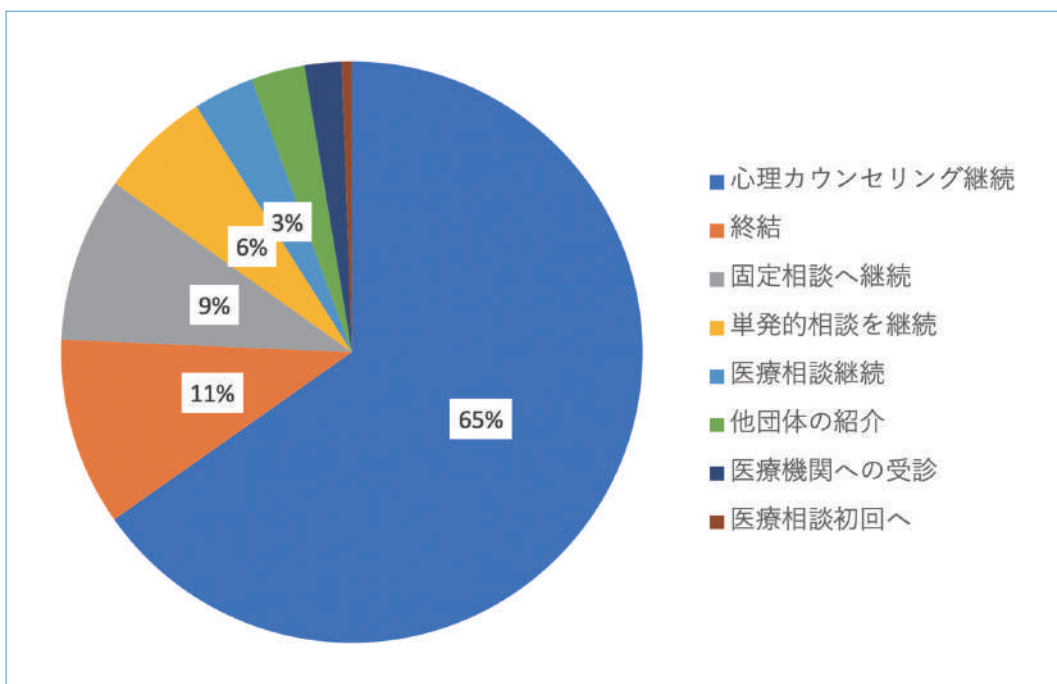
総件数 595 件の約 68%が「予約相談」、次いで「固定相談」が約 23%、そして「メール相談」が約 5%、メッセージング相談が約 4%を占めました。

相談種別②



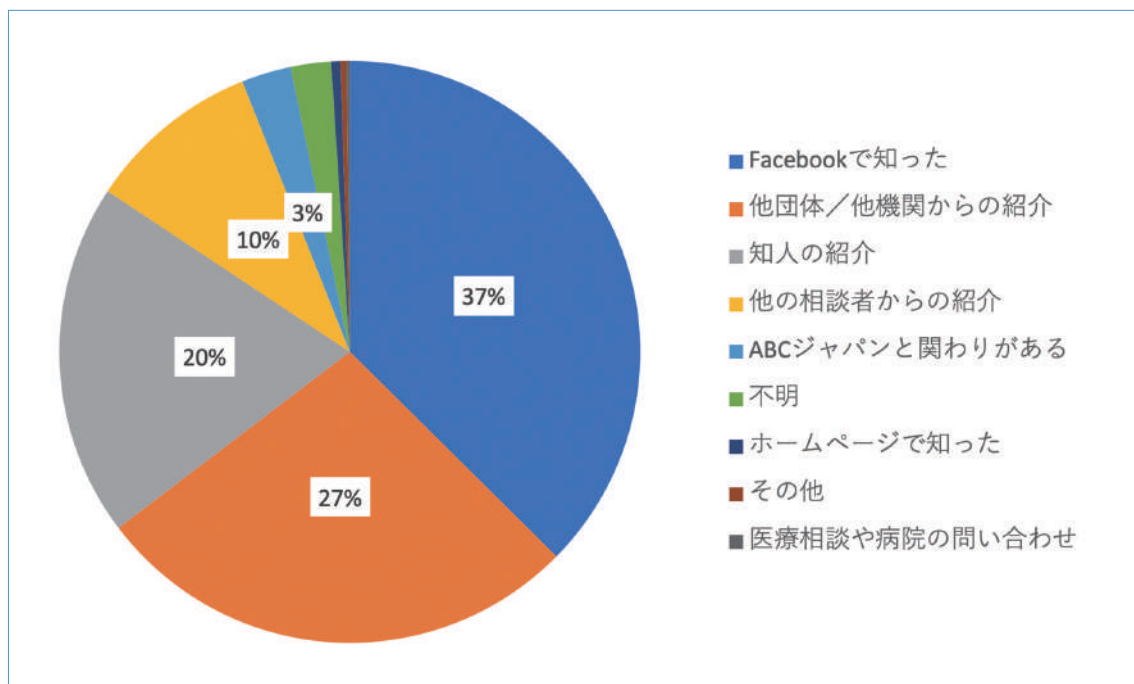
相談状況については、相談後の支援として、約 65%が「心理カウンセリング継続」、約 11%が「終結」、約 9%が「固定相談へ」、約 6%が「単発的相談の継続」でした。その他、「医療相談の継続」「他団体へ紹介」「医療機関への受診」「医療情報相談」が合わせて約 9%を占めました。

対応後の支援



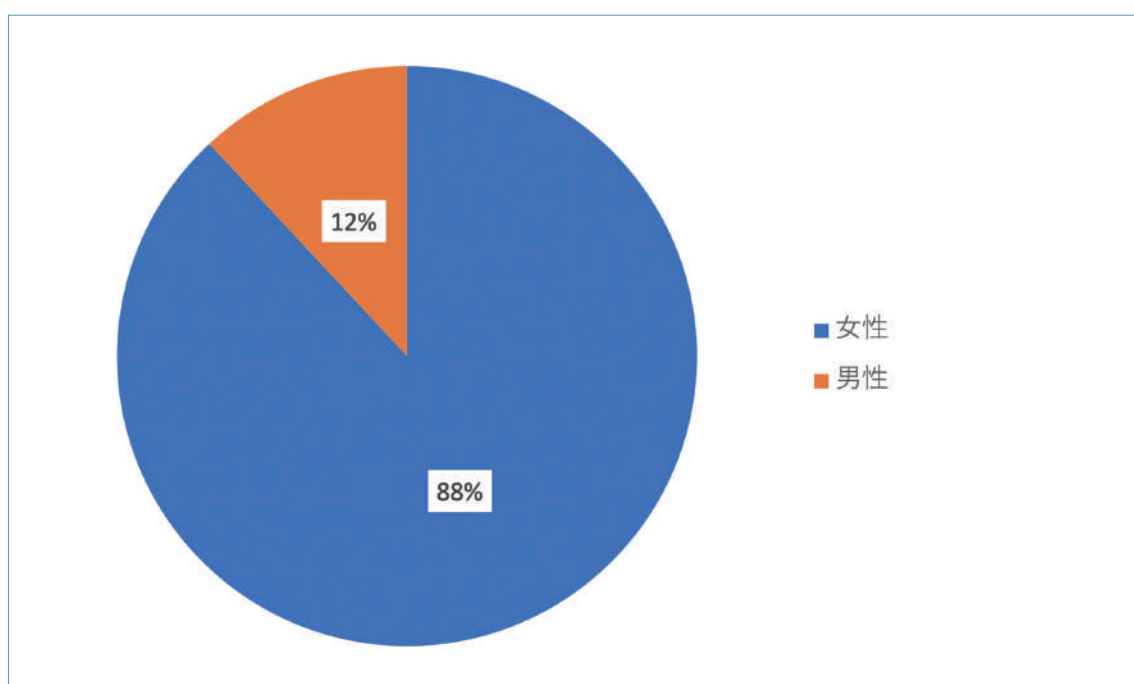
当サービスの情報入手手段としては、「Facebook」が最も多く約37%を占めました。次いで「当団体との関わりがある相談者」が約27%、「知人の紹介」が約20%でした。他の相談者からの紹介」は約10%でした。

当サービスをどのように知ったか

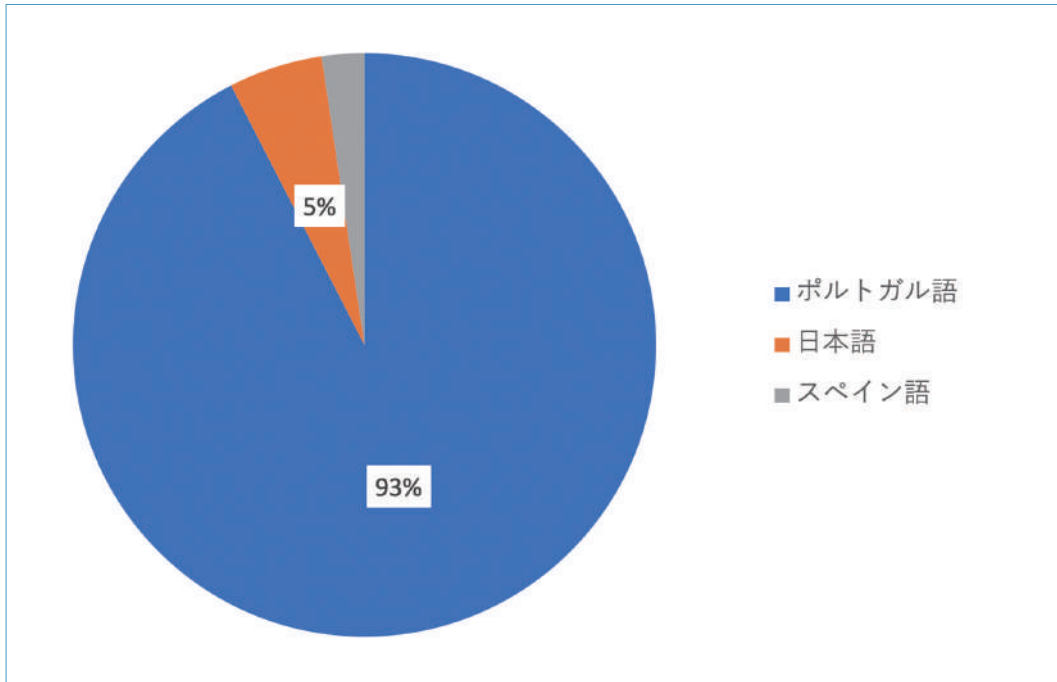


相談者の性別としては、約88%が女性、約12%が男性でした。そして、約93%がポルトガル語、約5%がスペイン語、そして約2%が日本語での相談でした。

相談者の性別

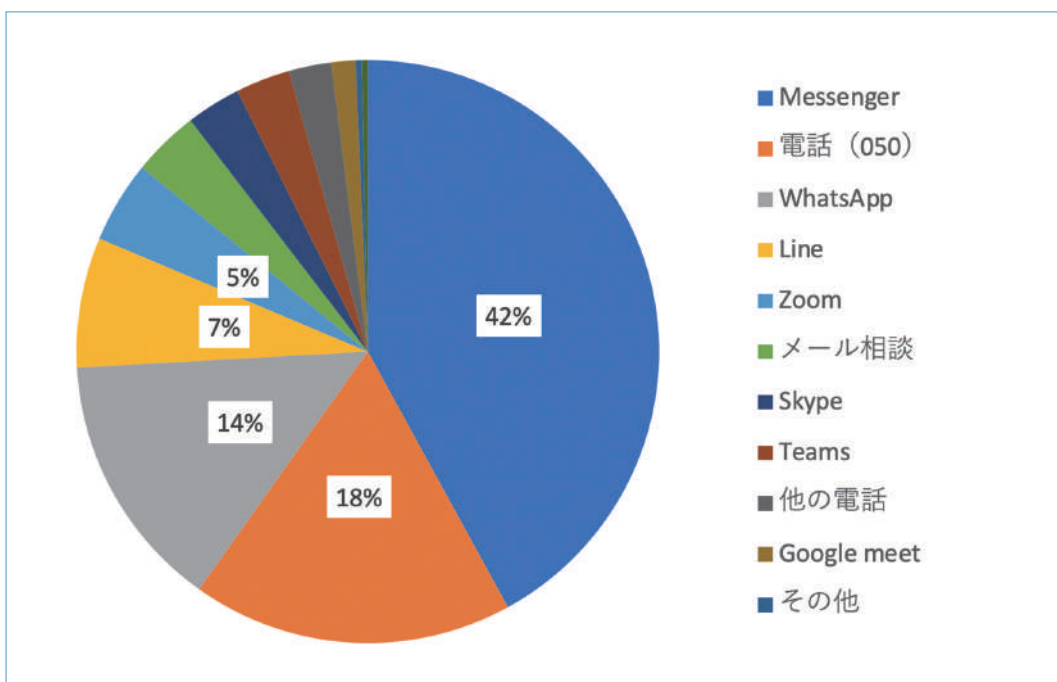


相談者の言語



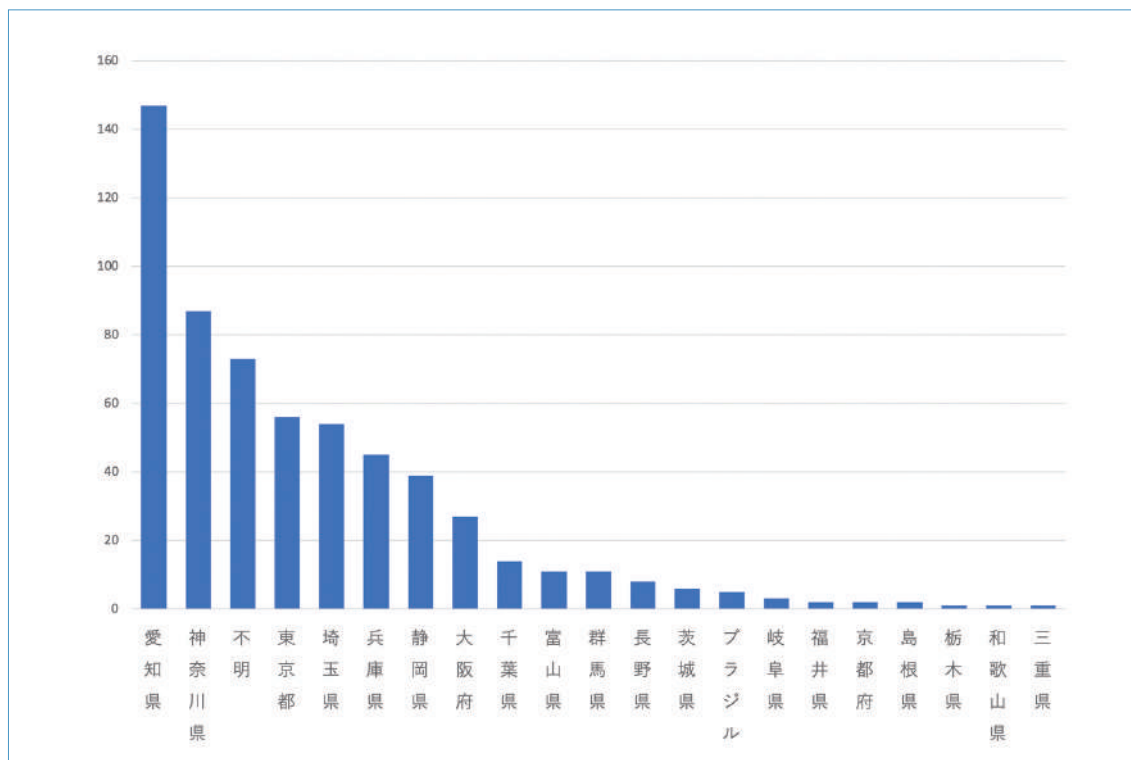
相談方法としては、「メッセージ」が最も多くて約 42%で、次いで「電話」が約 18%、そして、3 番目に多かった方法が「WhatsApp」の約 14%でした。その他、「Line」や「Zoom」、「Skype」、「Google Meet」など、オンラインツールの多様化が目立ちました。

相談方法



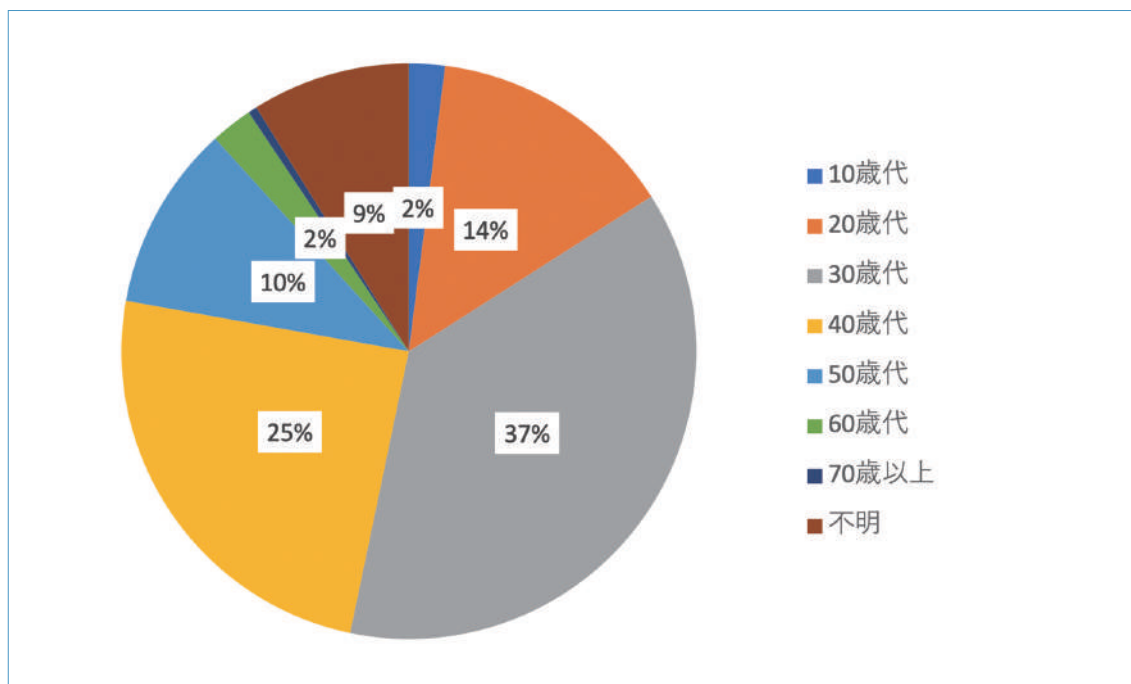
そして、相談者の居住地としては、下記のグラフのように「愛知県」が最も多く、次いで「神奈川県」でした。その他 20 の都府県からの相談がありました。「ブラジル」からの相談者に関しては、主にメールやメッセージでの相談で、相談サービスの問い合わせでした。

相談者の居住地



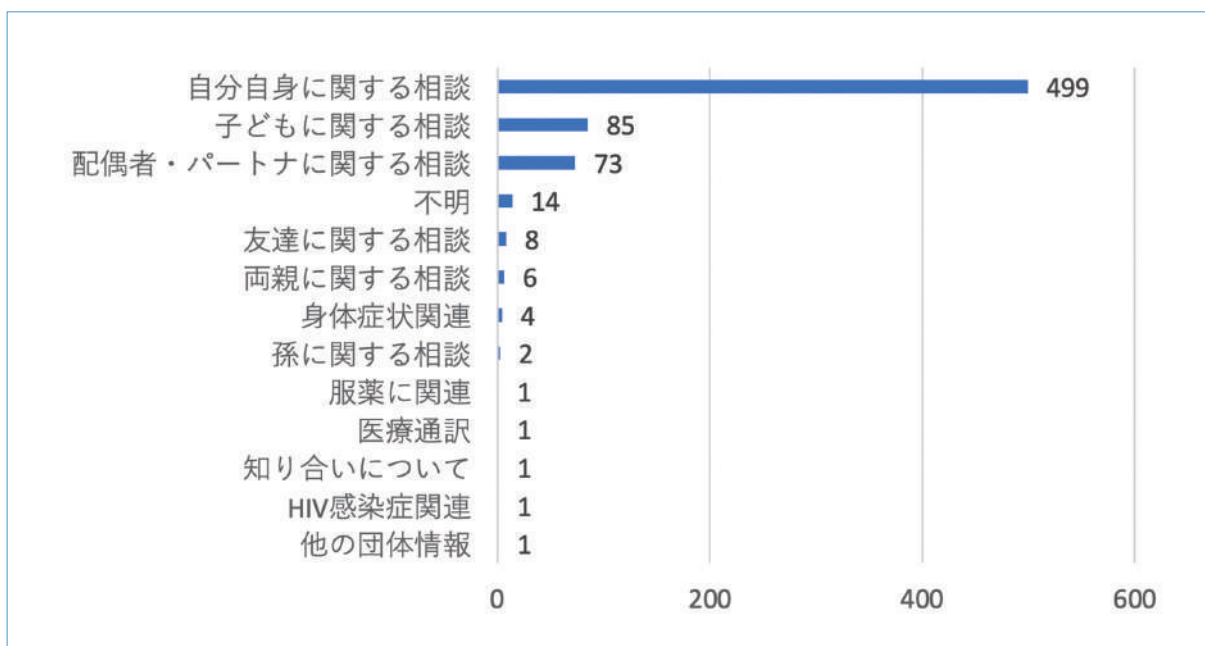
相談者の「年齢」に関しては、30歳代が最も多く、約37%でした。そして、40歳代が約25%、20歳代が約14%、50歳代が約10%でした。全体的に10歳代から70歳代まで、幅広い年齢層から相談が寄せられました。

相談者の年齢



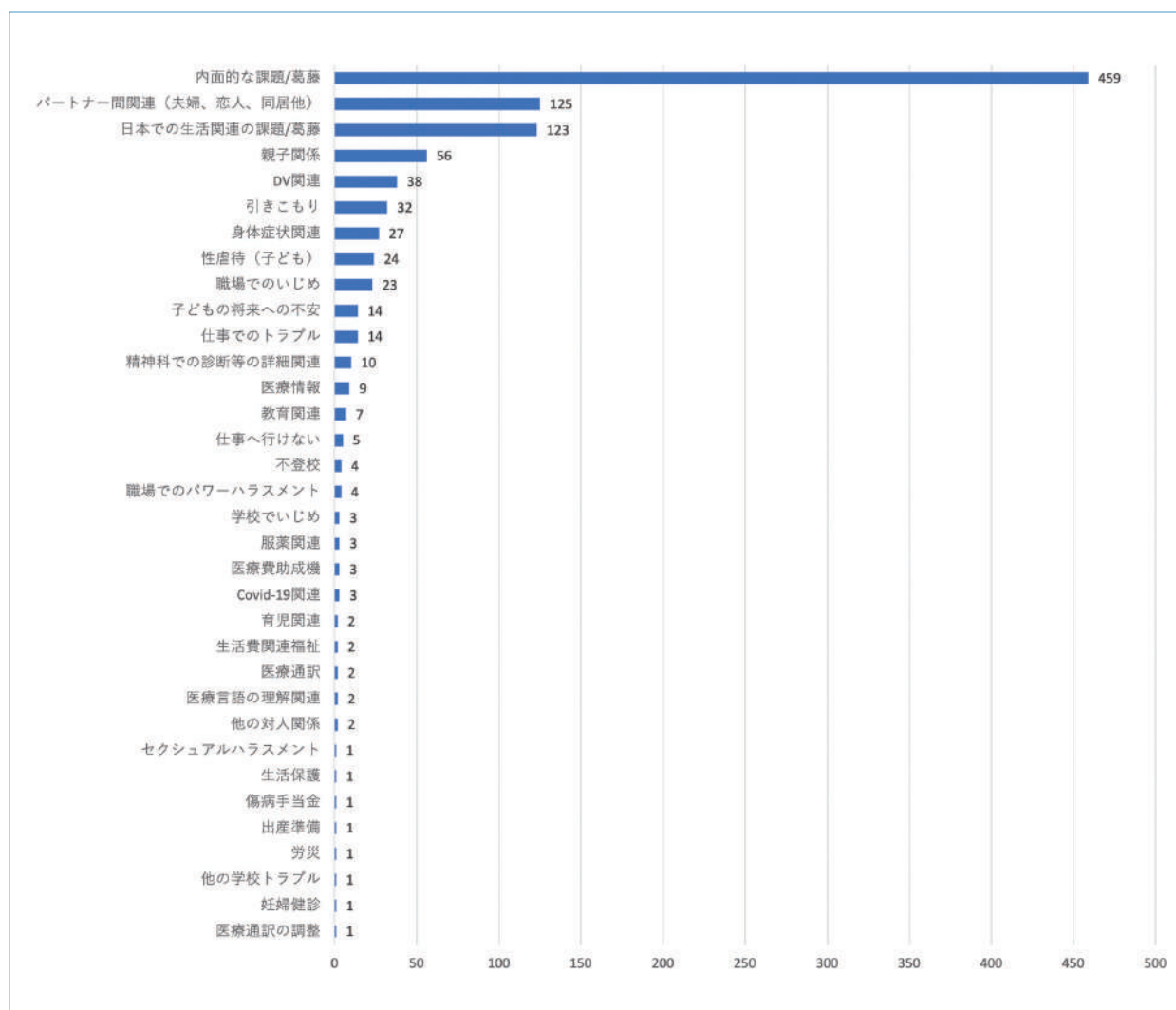
相談の内容で、誰についての相談かということに関しては、複数回答可で、「自分自身に関する相談」499件で最も多かったです。次いで「子どもに関する相談」が85件、そして、「配偶者・パートナー」に関する相談が73件でした。

相談内容(複数回答可)



そして、下記のグラフのように、その相談内容については複数回答可で、延べ件数で 459 件が「内面的な課題／葛藤」でした。次いで、「夫婦やパートナーとの関係について」が 125 件、「日本での生活関連の課題／葛藤」が 123 件、「親子関係」についてが 56 件でした。「DV」についての相談も目立ち、56 件でした。そして、子どもの「引きこもり」の相談が 32 件、が子どもへの「性虐待」に関する相談が 24 件ありました。その他、仕事でのハラスメントやいじめというトラブルなど、相談は多岐にわたりました。

相談内容③（複数回答可）



〈考察・今後へ〉

個別相談事業の相談件数に関して、2020年度は228件、2021年度は835件、今年度は595件でした。2022年度は、相談時間数を昨年度より少なめに設定しました。今年度の特徴は、継続と終結が増加し、相談者からの初回が多かったことです。

相談ツールとして様々なオンラインアプリが使われ、オンライン相談が定着しつつあります。そのためか、今年度は愛知県からの相談が最も多く見られました。

相談内容に関しては、「自分について、内面的な課題／葛藤」が最も多く、「パートナーやパートナーとの関係」、「DV」に関する相談が引き続き、多く寄せられました。

また、「子ども」に関する相談が多岐にわたったのが目立ちました。「引きこもり、性虐待、親子関係、子ども将来」などについての相談が多く見られました。

そして、変わらず「日本での生活関連の課題／葛藤」の相談が3番目に多い内容となり、異文化で生活することの難しさが浮き彫りになっています。

年代別では、仕事や子育て中の真っ最中であり、多くの課題を同時に抱え、より脆弱になりやすく、心理的な危機に陥りやすいと言える30 - 50歳代の相談者が最も多かったです。

カウンセリング回数としては、原則10回までと設定し、より深刻な場合は15回、また数名は20回以上のカウンセリングを実施しました。昨年度から継続してカウンセリングを受けていた相談者の多くが終結を迎えることができました。また、国内外の心理相談の受け皿が増えたこともあり、当事業を10回までで実施することができました。その結果、「終結」する相談が増えました。

相談内容が多岐にわたり、大人のみならず、子どもについての相談も多く、より幅広い知識や対応力が必要とされています。また、カウンセリングにとどまらず、地域との連携、支援機関との連携が不可欠な状況になっています。今後は、心理支援に加えて、より相談者に寄り添った福祉的な支援も必要であると考えられます。



PART4

孤立しがちな中高生の居場所運営

『つみれ自習室』

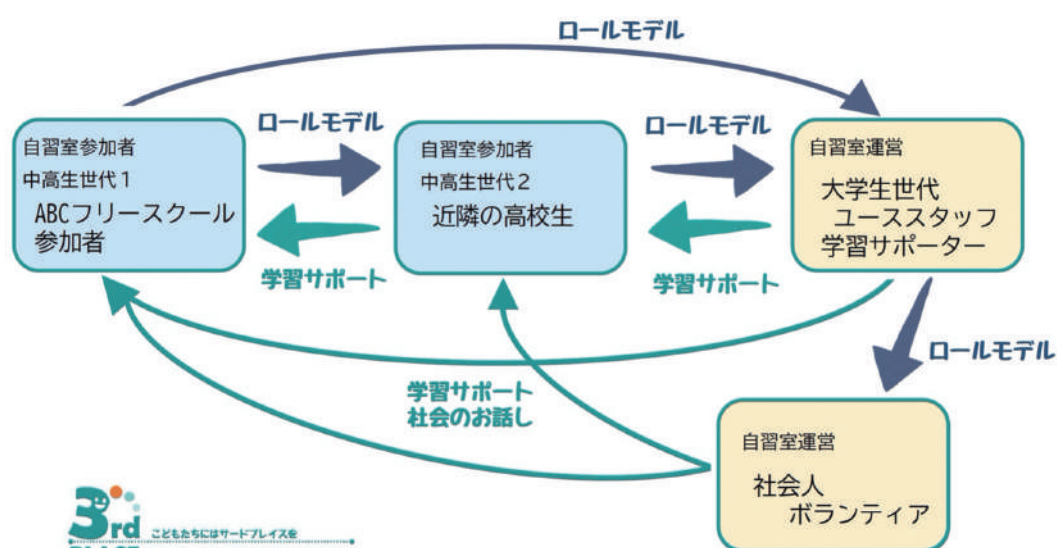
『つみれ自習室』として出入りフリーな学習の場をイメージして事業を実施。

◆実施回数：48回

参加人数：708名（スタッフ等含む） 内訳）中高生：447名 大人の参加：242名

	回数	中高生参加者数	スタッフ人数	ボランティア人数
4月	4回	23人	14人	0人
5月	4回	39人	20人	0人
6月	5回	29人	30人	0人
7月	4回	31人	7人	0人
8月	2回	7人	4人	0人
9月	5回	27人	27人	4人
10月	4回	33人	25人	4人
11月	4回	39人	19人	3人
12月	4回	60人	27人	3人
1月	4回	44人	17人	3人
2月	3回	50人	20人	2人
3月	5回	65人	32人	0人
合計	48回	447人	242人	19人

◆自習室運営のイメージ図



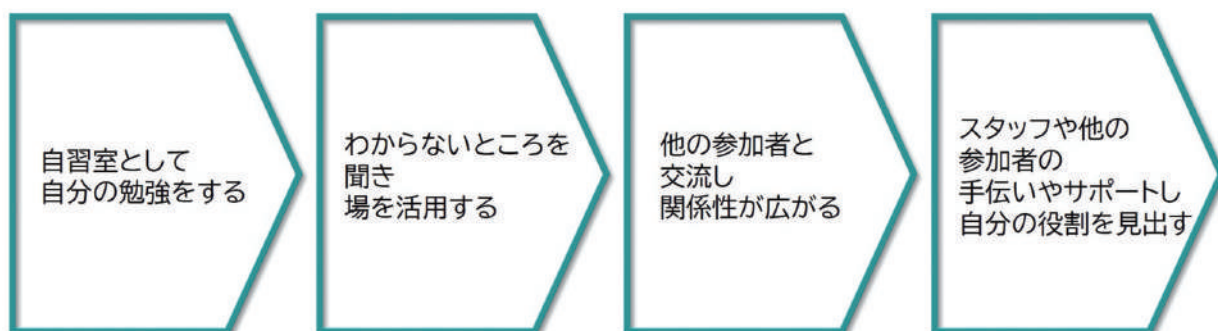
◆交流と成果

事業実施主体の2団体のそれぞれでつながりのある中高生世代が参加

- ・ABC ジャパンでサポートする中高生世代
- ・サードプレイスでサポートする中学生学習支援の卒業生および近隣在住の高校生
- 所属をしている高校で孤立をしている訳ではないが、居場所で出会った似た属性の子同士で、通じるものがある様子。毎週、居場所で待ち合わせをして話したり、一緒に勉強をしたりしている。
- 外国ルーツの生徒と近隣の高校生、この場で出会わなければ交わることがなかった子たちが、それぞれの母国語を教え合い交流を深めている姿があった。

◆発展する参加者の意識

参加者の参加深度の変化 関係性の発展とともに、より広がっていった。



◆ポイント

- 大学生世代のユーススタッフの存在が、居場所を作っていく上で非常に重要な役割を担っている。参加者の中高生世代と年齢に近いこともあるが、参加者がこれから向かう「受験」や「学校生活」をつい最近までリアルに体験していたスタッフたちの話は、参加者にとってロールモデルであり、とても興味のある話になる。
- 多様な世代の大人たち（大学生や社会人）がいることが、参加者の中高生世代には魅力的とのこと。また、学習だけでなく、ゲームや雑談などその時の気分で過ごせることが大切。勉強の場だから勉強をしなければいけないとなってしまうと、気分が乗らない子たちにとっては、居心地の悪い場所になってしまう。

◆参加者の声

- 私にとって自習室とは出会いの場だと思います。もちろん勉強をする場所ですが、普段は同じ学校で同じクラスの人達としか会わないけど、その枠を超えて違う学校や違う学科の人、違う国籍の人とも出会うことができ、その人達と話すことでものすごく刺激になり、友達も出来ました。
- 勉強も教えてくれるし、お話も沢山できて第2の学校みたいな感じで、ラフに行ける場所がかげがえのない居場所です。分からない所を丁寧に教えてくれて、気分転換にお喋りもしてくれて楽しいところです。

外国につながる中学生のための自習室 『スペース Amigo』

『スペース Amigo』として中学生を対象とした学習の場を火曜日 17:00～19:00 に開催。
参加者は日本語や教科などを、自分のペースで勉強ができ、学校の宿題や苦手な内容を学生・社会人のサポーターが一人ひとりに寄り添ってサポートしてきた。

◆実施回数：32回

参加人数：224名 内訳) 中学生：160名(4つ以上の中学校より参加)

サポーター(高校生・大学生・大学院生・社会人)：64名

◆自習室のポスター



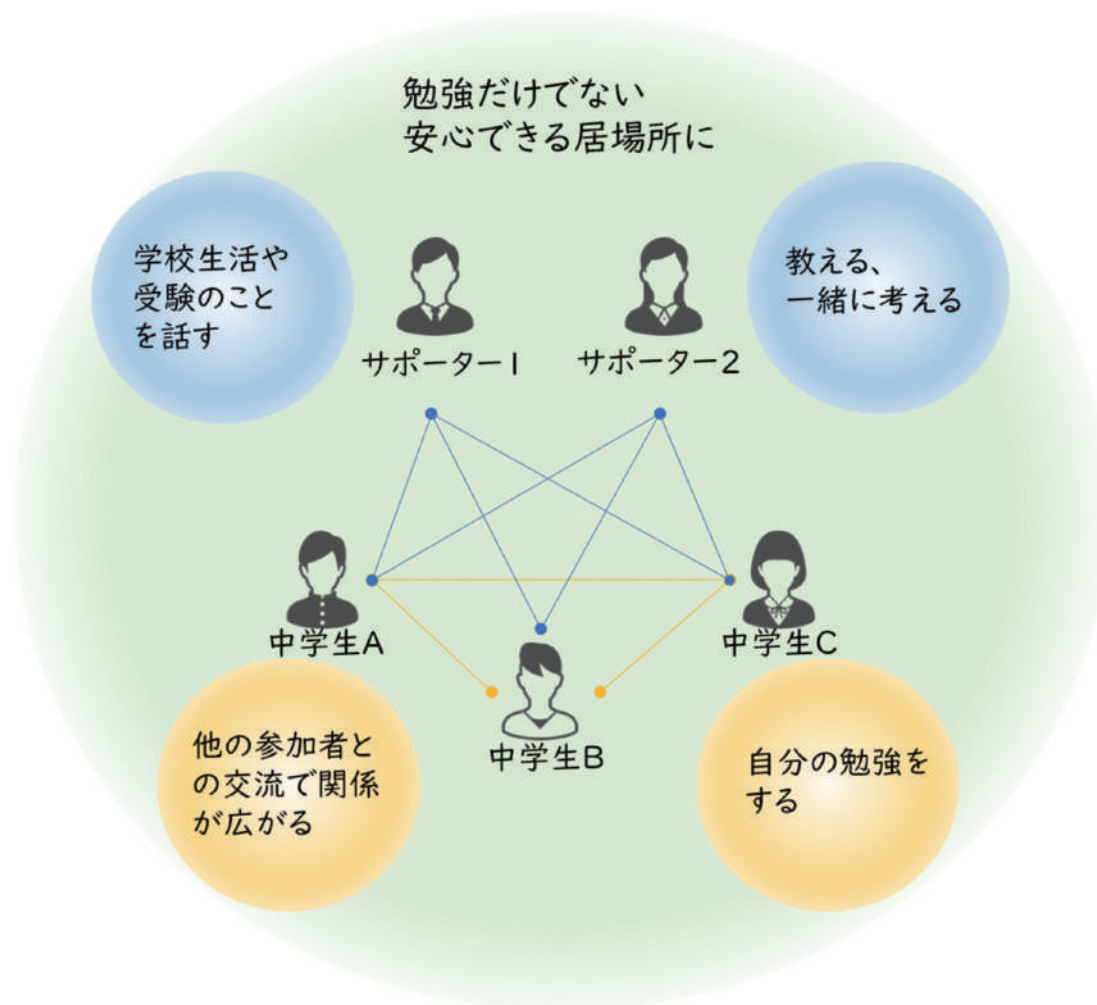
◆自習室の様子



◆成果

- 宿題や定期・期末テストに向けての勉強を行いながら、回数を重ねるごとに積極的に「この問題のここを聞きたい」と、高校生・大学生・大学院生・社会人等のボランティアに質問をする姿が見られるようになった。参加した中学生からは、保護者に質問をした際、日本での教育を受けていないため、聞きたいことと返答に齟齬が生じることがあり、質問できる人が増えてよかったと話があった。
- 所属する中学校以外の外国ルーツの生徒との出会いの場にもなった。さらに、高校生や大学院生ボランティアも外国につながり、実体験の話聞くことができ、サポーターがロールモデルになって、勉強だけでなく経験談やアドバイスを通して、進路・未来についても前向きに考えられるようになった様子が見受けられた。家族(自宅)・学校(友人・教職員・部活)が中心の中学生にとって、つながりが広がる重要な機会になった。
- 保護者が子どもの学校生活や勉強について、どのように向き合えばよいのか相談があった。事務所スタッフが保護者と中学生それぞれに関わりながら丁寧に対応したことで、安心して継続的な学びの場を保障することができた。

◆参加中学生・サポーターの関係図



◆サポーターへの効果

- 外国につながるサポーターは、勉強を教えるだけでなく、自分自身の経験から後輩である中学生たちの役に立ちたいという思いがあり、学習だけでなく安心できる場づくりへ大変貢献していた。
- 外国につながるのなないサポーターは、参加者との関わりが自身の理解だけでなく、学校や職場へ還元されていると話していた。

◆ポイント

- 外国につながるのなある先輩に学校生活や受験の話を知いたり、アドバイスをしてもらうこともあった。学校や家族以外の大人や、自分の学校以外同世代と知り合える場にもなった。

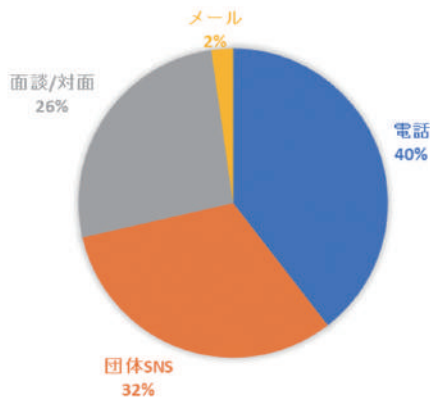
PART5

教育相談

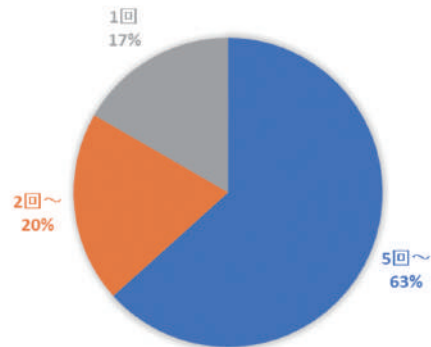
外国につながる子どもをもつ保護者が、日本の教育システムや進学、子どもへの教育、受験等について適切な情報を得ること、子どもに適切な勉強の環境作り、関連機関への紹介を目的とし、国内在住もしくは転居に伴う来日のため日本で学校生活を送る子どもの保護者を対象として、必要に応じて通訳対応を導入し、就学や進学について個別相談の受付、情報提供等を行った。

◆実施回数：1,680回

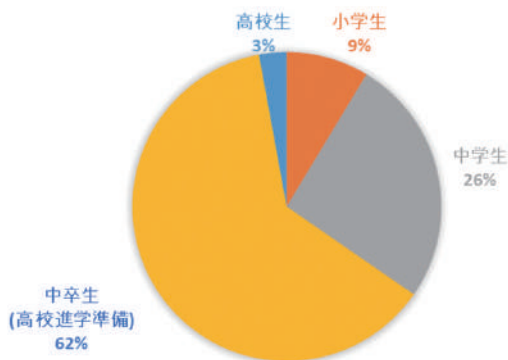
1. 相談方法



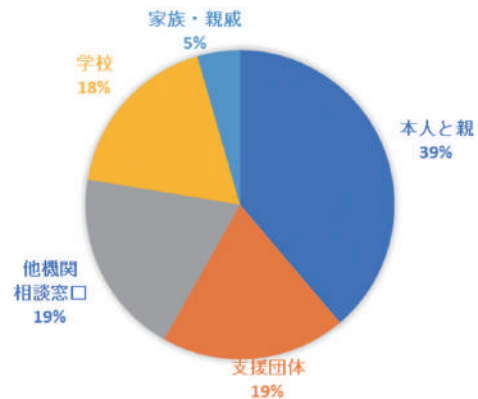
2. 相談回数



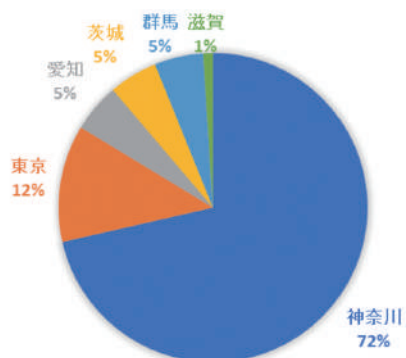
3. 相談対象者



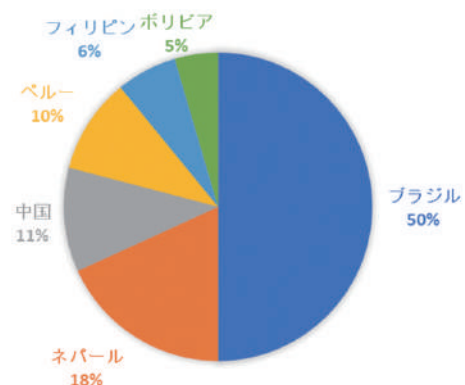
4. 相談者



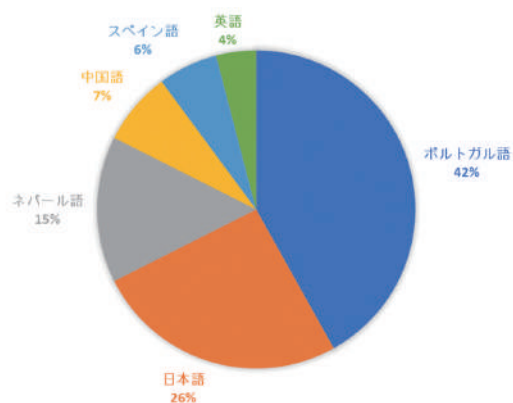
5. 居住地



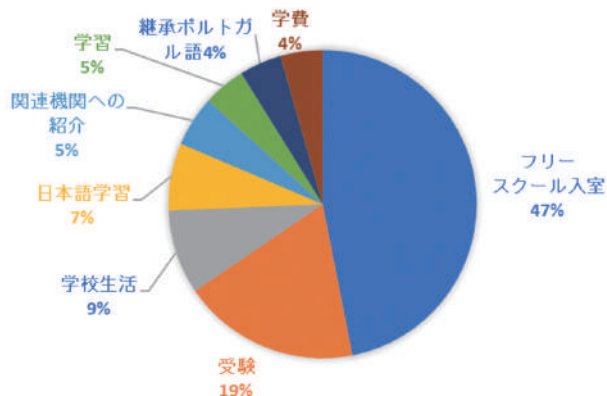
6. 出身国



7. 相談言語



8. 相談内容



- ・来日から1年未満の方からの相談が約73%であった。相談後、相談対象者の状況が変わると、異なる内容で相談があったり、日本に長く住みコミュニティに根付いている人からは、継続的な相談が多かった（図2）。
- ・相談対象者で特に多かったのは、中学校を卒業していて高校進学を希望する者であった（図3）。彼らに比べ、小学生や中学生は学校に所属しており、質問や相談をすることができる環境にある。また、支援団体や他機関の相談窓口、学校からの相談も少なくない（図4）。
- ・当団体の拠点である神奈川県からの相談が最も多いが、他地域からの相談も一定数あった（図5）。各地域や居住地近郊での相談窓口の有無、周知の状況、言語や方法・開設時間等の利用のしやすさ・難しさなどの理由や、相談者の口コミによる広がり、また、団体ホームページやSNS等による情報からのリーチが考えられる。
- ・はじめ日本語で話し、内容の詳細については母語で希望される場合が多く、通訳と共に相談を行った。相談言語で、日本語での相談は26%であった（図7）。母語での相談の重要性と、母語相談窓口設置・増設の必要がある。
- ・他機関は、小学校・中学校・高校・専門学校・他団体のフリースクール・支援団体・教育委員会・あーすぶらざ（神奈川県立地球市民かながわプラザ）・国際交流ラウンジ等と連携を図った。

令和4年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
活動報告書

「自閉症スペクトラムの子どもの発達を促す教育術に迫る
～家族と支援者のためのガイドブック」

発行日：2023年3月31日

発行者：NPO 法人 ABC ジャパン

〒230-0051 横浜市鶴見区鶴見中央 4-7-15 ラカンパーナ キソヤ 3F

TEL：045-550-3455

執筆：倉出マイラ 岩木エリーザ 須田洋平 安富祖樹里 和泉正明 渡辺裕美子

翻訳：渡邊洋之

制作：ABC ジャパン活動報告書編集委員会

デザイン：スタジオクッカバラ

表紙：安富祖美智江 佐々木英恋

Conheça nossas atividades:

Tsumire Jishuushitsu

つみれ自習室

O que é o Tsumire Jishuushitsu?

O Projeto Tsumire Jishuushitsu é uma parceria da NPO ABC Japan com a NPO Third Place (NPO法人サードプレイス) e o apoio do WAMI (Agência de assistência médica e de bem-estar do Japão) como objetivo de proporcionar para os alunos do ensino médio um espaço totalmente gratuito destinado aos estudos.

Conheça nossas atividades:

Plantão Psicológico da ABC Japan

心理支援サービス

O que é plantão psicológico?

O plantão psicológico é um serviço de atendimento psicológico gratuito por meio de um telefonema com psicólogos experientes.

ABC JAPAN

SPACE AMIGO

スペース Amigo

MINICURSO

Transtorno de Ansiedade Social (TAS)

veja o vídeo e se inscreva para receber o vídeo!

ONLINE GUNMA

ITINERANTE

23/FEV (QUI) 18:00-20:00

Como educar para a vida: Um olhar integrado para o ato de cuidar

ABC JAPAN

Como educar nossas crianças para a vida?

外語につながる子どもの成長を考えるオンラインセミナー

Diante das novas configurações familiares onde as crianças estão cada vez mais dependentes dos meios eletrônicos...

educar virá uma tarefa cada vez mais difícil...

医療情報提供

Orientação Médica

Você se identifica com alguma destas situações?

#1

"Tive que ir ao médico no Japão, mas não entendi as orientações em japonês!"

Para utilizar este serviço, ligue:

050-6860-4032

Horário de atendimento: Quarta-feira das 17:00 às 19:00.

ONLINE IBARAKI

ITINERANTE

23/FEV (QUI) 18:00-20:00

Como educar para a vida: Um olhar integrado para o ato de cuidar

Como lidar com as novas demandas que surgem?

Como lidar com as novas demandas que surgem?

Venha refletir conosco a respeito dessas questões na palestra online e gratuita para pais e educadores:

Educar para a vida

Um olhar integrado para o ato de cuidar

#2

"Não sei qual instituição médica japonesa é a mais adequada para meu caso!"

#3

"Fui ao médico e não consegui me expressar sobre minhas questões relacionadas à saúde mental."

Se identificou? A ABC Saúde pode te ajudar!

Oferecemos plantão de Orientação Médica gratuito!

Este serviço ajuda as pessoas que têm dificuldade no idioma japonês para que possam receber atendimento com segurança.

Gratuito

PLANTÃO PSICOLÓGICO

Quinta-feiras Horário: 20:00h às 22:00h

050-6860-4032

あなたに、この席を見えますか? ~立ち回りができる社会の考えを~

2023年12月11日 (日) 13:00~16:00

外国人につながる中・高校生と若者のための

教育フェア

Gratuito

ORIENTAÇÃO MÉDICA

医療情報提供

Quarta-feiras Horário: 17:00h às 19:00h

050-6860-4032

Gratuito

スペース Amigo

Controle do estresse e lazer para estrangeiros no Japão

Gratuito

ORIENTAÇÃO MÉDICA

Gratuito

PLANTÃO PSICOLÓGICO

外国人につながる中・高校生と若者のための

教育フェア

2022年 8月27日(土) 10:00~12:30 / 13:30~16:00

心療カウンセリング

Especial Atendimento Psicológico

Se sentir que está difícil enfrentar os problemas sozinho, não hesite em entrar em contato conosco!

PALESTRA ONLINE Gratuita

Educar para a vida

Um olhar integrado para o ato de cuidar

23/FEV (QUI) PALESTRANTE MAYRA KUNDE (Psicóloga Terapeuta Especialista)

18:00 - 20:00

Dúvidas sobre educação no Japão?

Consulte a ABC Japan!

- Como ingressar na universidade no Japão?
- Como é o cotidiano na escola japonesa?
- Como funciona uma bolsa de estudos?

Na dúvida, consulte a ABC Japan pelo email educar@abcjapan.org ou linked!

教育フェア

8月27日(土)

WAMI

WAMI

EDUCATION FAIR

教育フェア

外国人につながる中・高校生と若者のための

- 高校進学ガイダンス
- 大学進学ガイダンス・キャリアガイダンス
- 大学・専門学校ブース
- 相談コーナー
- 海外移住資料館見学ツアー
- etc

外国人につながる中・高校生・若者のための

教育フェア

Kanto Gakuin University 関東学院大学	GTV Global Trust Network グローバルトラストネットワークス
Tokai University 東洋大学	WORLD REMEDIATION キョウダイビルメンテナンス
Tempo University テンポ大学	Asa Publishing アスタ出版
Kanagawa Gakuin University 川崎学院大学	WJ Decapathante Administrative Language International Office 日本国際行政推進オフィス
Kanagawa Prefectural Junior College for Industrial Technology 神奈川県立産業技術短期大学校	Study in Japan
Yokohama YMCA College 横浜YMCA学院専門学校	
Kanto Institute of Languages 関東言語学院	
Wakayama Design College 和歌山デザイン学院	Foreign Residents Support Center (FRSC) 外国人住民支援センター(フリスツ)
Kanagawa College 神奈川学院	Japan International Cooperation Agency (JICA) JICA横浜
Kanagawa College of Design 神奈川デザイン学院	NJO Tsunami (Support Office for Transition to Work) 国際移行支援事務所 にじこば
Japan International Cooperation Center (JICC) 日本国際協力センター	ABC (Japan Career Plan Consulting) ABC(日本キャリアプランニングセンター)
Japan Aviation Academy 日本航空学院	

NPO法人ABCジャパン主催

外国人につながる子どもの支援を考えるオンラインセミナー

心理領域セミナー

子どもたちの「心の病気」とその「支援の始め方」

子どもたちの「心の病気」について学び、実践の支援につなげる方法を身につけるためのセミナーです。

1月21日 (土)

日 時: 2023年1月21日 (土) 10:00~12:00 / 13:00~15:00

開催方法: ZOOMによるオンライン参加費: 無料 定員: 50名 (先着順)

お申し込み

高校生対象オープンスペース

Supporte nos estudos para alunos do ensino médio

つみれ自習室

Tsumire Jishuu-shitsu

16:00-19:00 (quintas-feiras)

- Espaço para estudar e fazer novas amizades!
- Gratuito!
- Vagas limitadas!

Reserva educar@abcjapan.org

外国人につながる中・高校生と若者のための

教育フェア

2023年12月11日 (日) 13:00~16:00

外国人につながる中・高校生と若者のための

教育フェア

2023年12月11日 (日) 13:00~16:00

NPO法人ABCジャパン ABCジャパンについて 助成: 独立行政法人福祉医療機構 (WAMI)

